

3/4~4/2
パブリックコメント用

西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する方針

令和8年 3月

白紙

目次

I.基本構想

序章 はじめに.....	3
(1)本計画の役割・目的.....	3
(2)学校規模適正化に向けた議論の経緯.....	3
(3)上位関連計画.....	5
第1章 西郷村教育環境の現状.....	7
(1)西郷村の人口の趨勢.....	7
(2)児童・生徒数、学級数の見通し.....	9
(3)各学校の沿革・特徴.....	16
第2章 学校教育環境を取り巻く環境変化.....	25
(1)令和の日本型学校教育の姿.....	25
(2)新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方.....	26
(3)学校施設のバリアフリー化の推進.....	26
第3章 村民の意向.....	27
(1)PTA・教職員ワークショップ.....	27
(2)村民アンケート.....	30
第4章 中学生の意向.....	36
(1)中学生アンケート.....	36
(2)中学生ワークショップ.....	43
第5章 西郷村学校教育環境が抱える課題.....	45
(1)西郷村学校教育環境が抱える課題.....	45
(2)優先的に取り組むべき課題.....	46
第6章 西郷村の望ましい学校教育環境.....	47
(1)基本目標.....	47
(2)望ましい学校教育環境の基本方針.....	47
(3)望ましい学校教育環境を確保するための方針.....	50
第7章 地域懇談会.....	51
(1)目的.....	51
(2)開催概要.....	51
(3)懇談会意見のまとめ.....	52

Ⅱ. グランドデザイン

第8章 望ましい学習環境を確保するための中学校統合の考え方	57
(1) 中学校の望ましい学習環境	57
(2) 新しい中学校の規模検討	58
(3) 新しい中学校施設の敷地条件	61
第9章 学校統合の推進に向けた今後の検討課題	62
(1) 学校統合を進めるにあたっての留意事項	62
(2) 今後のスケジュール(案)	64

I .基本構想

西郷村の教育環境の現状を分析し、様々な方からのご意見をいただきながら、将来に渡って西郷村の子どもたちが夢を持てる教育環境とは何か、教育委員会の構想を明らかにしました。

白紙

序章 はじめに

(1)本計画の役割・目的

全国的に少子高齢化が進行する中、西郷村においても児童生徒数の減少が緩やかに進んでおり、学校施設の老朽化も顕在化しています。加えて、情報化・国際化の進展により、学校教育には多様な教育ニーズへの対応や新たな教育的取り組みが求められています。

こうした状況を踏まえ、西郷村教育委員会では、村民の皆様のご意見を伺いながら、西郷村の未来を担う子どもたちに質の高い望ましい教育環境を提供するため、基本構想及びグランドデザインを策定することとしました。

(2)学校規模適正化に向けた議論の経緯

将来的な児童生徒数の減少、学校施設の老朽化への対応を検討するため、令和4年度より学識経験者、PTA 代表、学校運営協議会(地域代表)、学校関係者で構成する「西郷村学校適正化配置検討委員会」を組織し、学校適正化について議論をおこなってきました。

年度	論点
2022 年度 (令和 4 年度)	第 1 回西郷村学校適正化配置検討委員会 ①学校適正化配置検討委員会における検討事項について
	第 2 回西郷村学校適正化配置検討委員会 ①学校適正化配置検討委員会の進め方 ②背景・目的の整理、小中学校の現状把握と将来予想
2023 年度 (令和 5 年度)	第 3 回西郷村学校適正化配置検討委員会 ①学校規模適正化の方針と必要性の検討 ②学校毎における現状、課題の共有 ③学校規模に関する検討
	第 4 回西郷村学校適正化配置検討委員会 ①学校適正配置の考え方、配置案、方向性について ②提言内容の検討
	西郷村学校適正化配置検討委員会から教育委員会へ提言書を提出
	村長、村議会へ提言書の内容を報告

学校規模適正化・適正配置にかかる提言(一部抜粋)

学校の適正配置計画

(1)再編時期

今後、10年から20年で、できるだけ早い時期

(2)統合案

① 小学校計3校とするのが望ましい

- ・熊倉小学校と羽太小学校を統合する
- ・小田倉小学校と川谷小学校を統合する
- ・米小学校は存続とするが、今後再編の検討が必要である

② 中学校1校とするのが望ましい

- ・統合し、空き校舎となる西郷第二中学校については、施設老朽及び立地条件が課題となっている小田倉小学校の新校舎として利活用を検討する

(3)上位関連計画

① 西郷村第四次総合振興計画

教育分野に関する施策の方向性は以下のとおり設定されています。

基本目標2 自らを高め、共によりよく生きる村づくり

2-3 教育環境の整備

【施策の方向性】

子どもたちの安全が守られ、安心して学習でき、時代のニーズに応じた教育ができる環境づくりを推進します。

施策名	施策の概要
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none">・不審者侵入時や災害発生時、感染症の拡大時などの児童生徒の安全確保に向けた<u>危機管理対策を強化</u>します。・給食センターの整備やアレルギー対策等、安全・安心な学校給食の提供を図ります。
教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none">・<u>心力、学力、体力</u>に関わる内容について、教職員対象の各種研修を充実させ、<u>指導力の向上</u>を図ります。・授業研究会等において指導主事や学校教育推進員の活用が図られるよう、各学校と連携しながら指導体制を充実させ、教職員の<u>授業技術</u>を高めます。
計画的な施設・設備の更新	<ul style="list-style-type: none">・<u>老朽化した教育施設の整備</u>を計画的に推進します。・ICT 環境の整備など、<u>時代に対応した教育ニーズの環境整備</u>を推進します。学校教育施設を地域活動等に活用できるよう、地域と連携しながら管理体制を構築し、<u>夜間・休日等の利用</u>を推進します。・少子高齢化の進む中、持続可能な質の高い教育を目指すため「西郷村学校適正化配置検討委員会」において必要な調査及び検討を進め、<u>学校規模適正化及び適正配置</u>等に努めます。
安全な通学の確保	<ul style="list-style-type: none">・遠距離通学者の安全な通学のため、<u>スクールバス</u>を運行します。・西郷村通学路交通安全プログラムにより、関係機関と連携しながら、<u>通学路の安全確保</u>を図ります。
就学支援の充実	<ul style="list-style-type: none">・経済的な理由で安心して就学できない児童生徒については、要保護・準要保護世帯に認定し就学援助費を支給します。また、進学をあきらめることのないよう、就学にかかる経済的支援や奨学金制度の利用支援を図ります。・小中学校における給食費の実質無償化を図ります。

② 西郷村教育大綱(平成 30 年5月制定)

先人から受け継いだ美しい自然や伝統文化の中で、すべての村民が生きがいを持って、いきいきと輝き、笑顔で暮らせる村を子どもたちへ、未来へ繋げていくため、次に掲げる人づくりに努めます。

- ① 自他の命を大切にする人
- ② 夢に向かって学び、生き抜く力を高める人
- ③ 郷土の自然や文化に誇りを持ち、郷土を愛する人
- ④ スポーツ、芸術、文化に、すすんで親しむ人
- ⑤ 感謝の心、思いやりの心を大事にする人
- ⑥ 生きがいを持ち、社会に貢献できる人
- ⑦ お互いの個性を認め合い、支え合える人

③ 西郷村第2次教育振興基本計画(令和5～9年度)

【教育基本理念】

一人の人間として自立し、社会の中で共に生きていくことが重要であると考え、教育基本理念を以下のとおり掲げます。

教育基本理念 『自立』と『共生』

【基本目標】

基本理念を踏まえた人づくりの実現を目指すには、豊かな自然環境や地域の人材などを活用した学校教育及び生涯学習・スポーツを推進し、芸術・文化の進行や地域文化の継承、それらを通じた世代間交流などを図りながら、多様性を認め合う地域社会づくりが必要です。

基本目標 自らを高め、共によりよく生きる人づくり

児童生徒の教育環境に関わりの深い基本施策は、以下の通りです。

基本施策	
学校教育の充実	豊かな心の育成
	確かな学力の向上
	健やかな体の育成
	特色ある教育の推進
	時代に対応した教育の推進
	特別支援教育の充実
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の連携促進
	地域ぐるみの見守り活動の支援
	家庭の教育力の向上支援
	多様な体験・交流活動の充実
教育環境の整備	安全・安心な学校づくり(給食センター含む)
	教職員の資質の向上
	計画的な施設・設備の更新
	安全な通学の確保
	就学支援の充実

第1章 西郷村教育環境の現状

(1)西郷村の人口の趨勢

2010年の人口は19,767人でしたが、2020年には20,808人と、約1,000人の増加が見られました。地方自治体の多くが人口減少に直面する中で、西郷村は比較的安定した人口増加を維持しています。しかしながら、西郷村の人口も今後は徐々に減少していく見込みとなっています。

特に、0～14歳の若年人口は、2020年の2,805人から2050年には1,789人へと減少し、子どもの数が大幅に減る見込みとなっています。

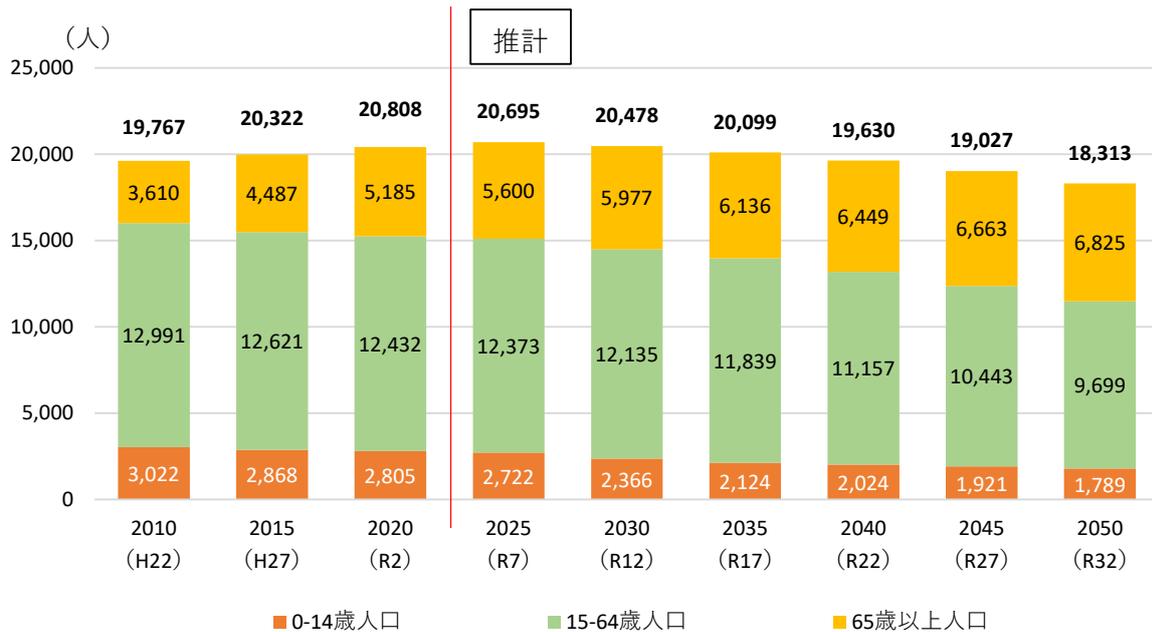


図 総人口・年齢3区分別人口の推移(実績)と将来推計

出典：総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

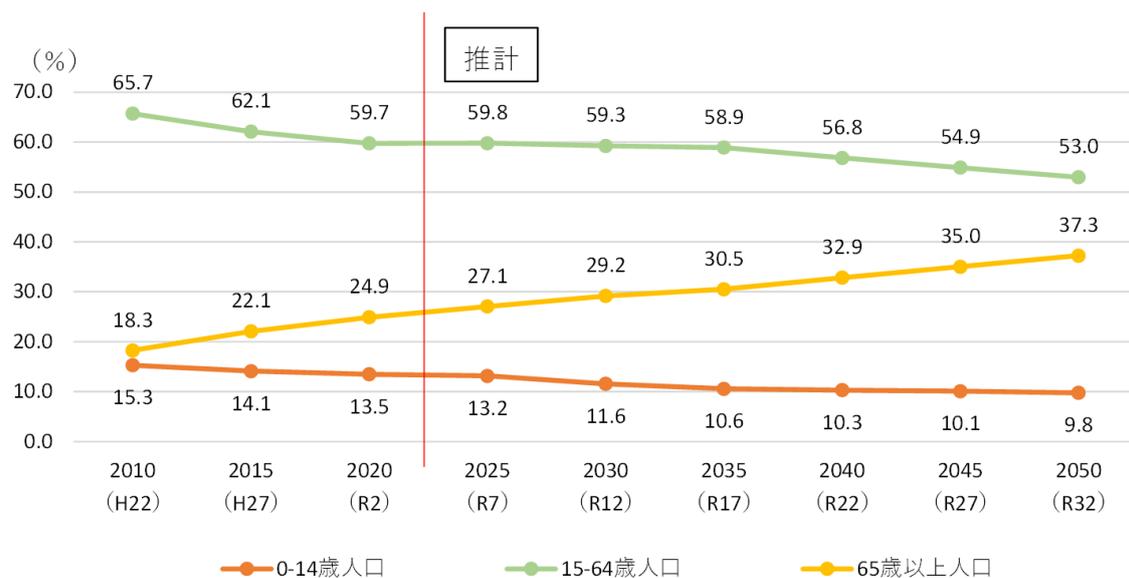


図 総人口・年齢3区分別人口の推移(実績)と将来推計

出典：総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

西郷村の人口分布としては、国道 289 号の西郷村役場周辺、国道 4 号の小田倉に多く分布しています。

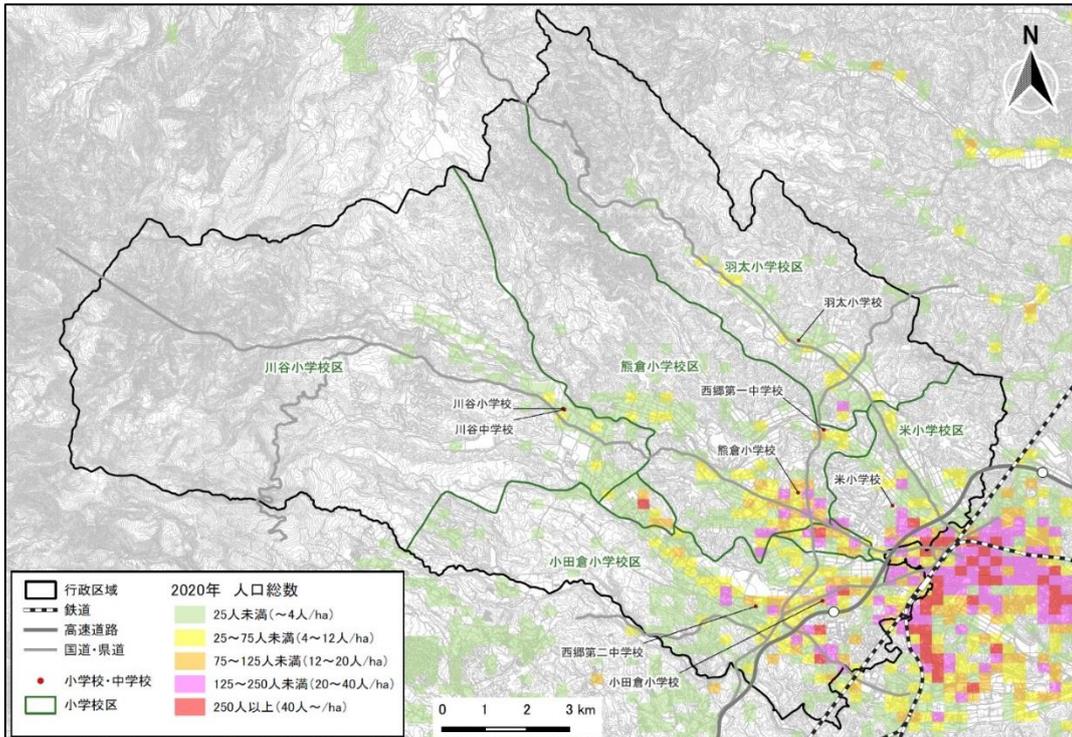


図 令和2年 人口の分布(250mメッシュ)

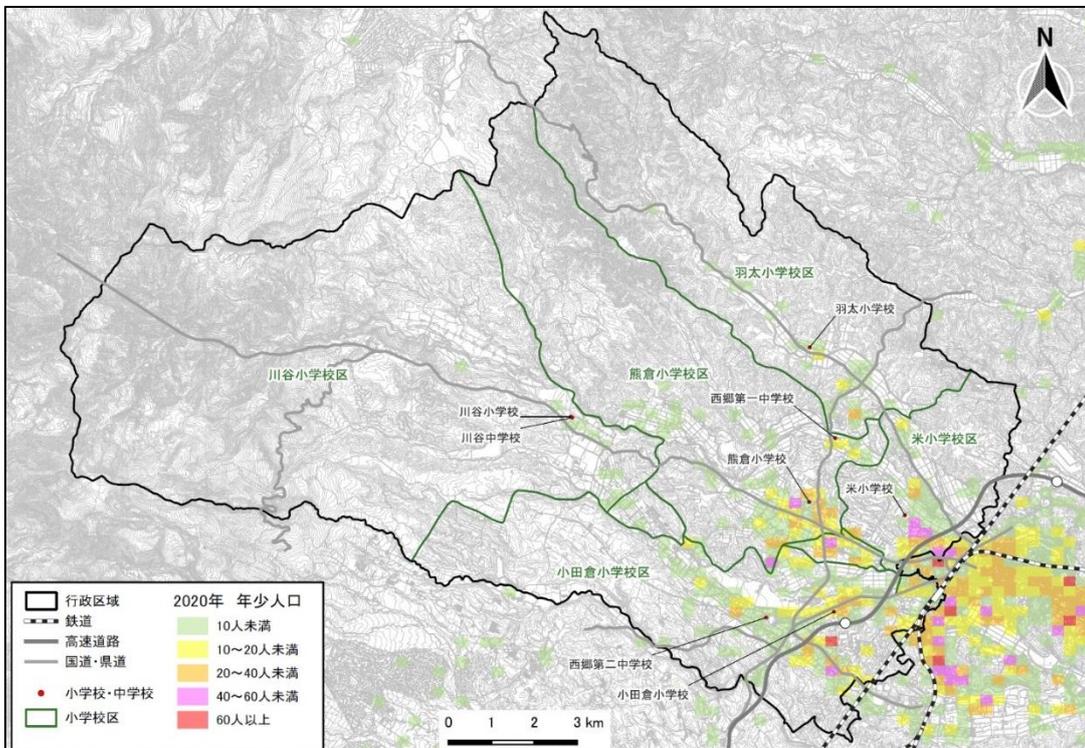


図 令和2年 0~14歳の分布(250mメッシュ)

出典:総務省「国勢調査」

(2)児童・生徒数、学級数の見通し

① 小学校

西郷村の小学校児童数は、令和4年 1,145 人をピークに緩やかな減少傾向となり令和 7 年度は 1,089 人となっています。今後も減少傾向が続くと見込まれています。

学級数をみると、熊倉小学校及び小田倉小学校は、今後も標準規模である 12 学級を確保できる見通しとなっています。しかし、米小学校、羽太小学校、川谷小学校は、現在も標準規模である 12 学級を下回っています。特に、川谷小学校は全学年複式学級となっており、羽太小学校では一部の学年が複式学級となっています。

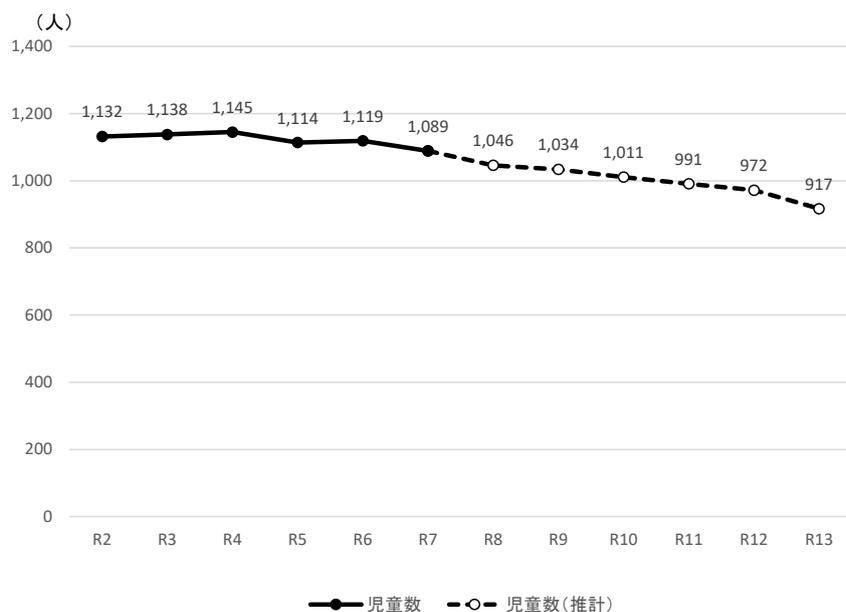


図 小学校児童数の推移・推計

出典:西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計

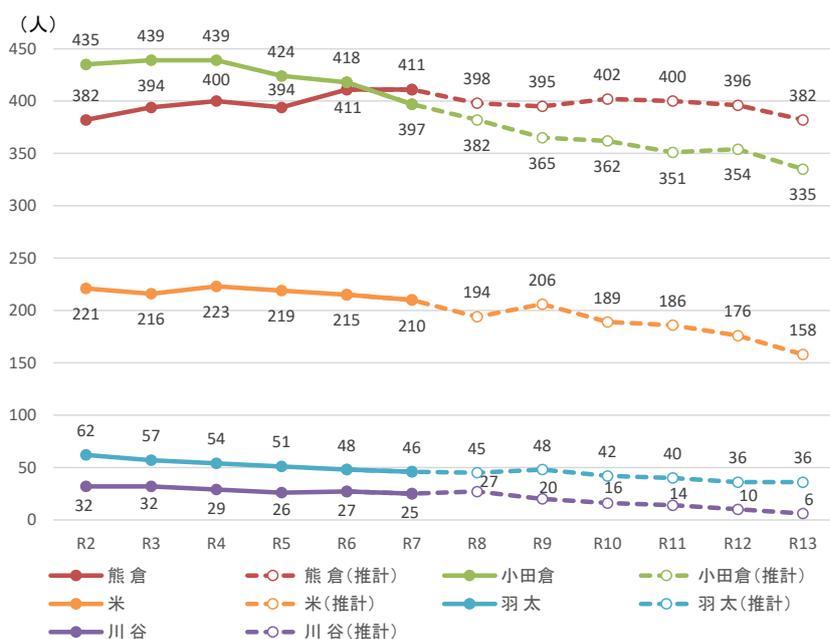
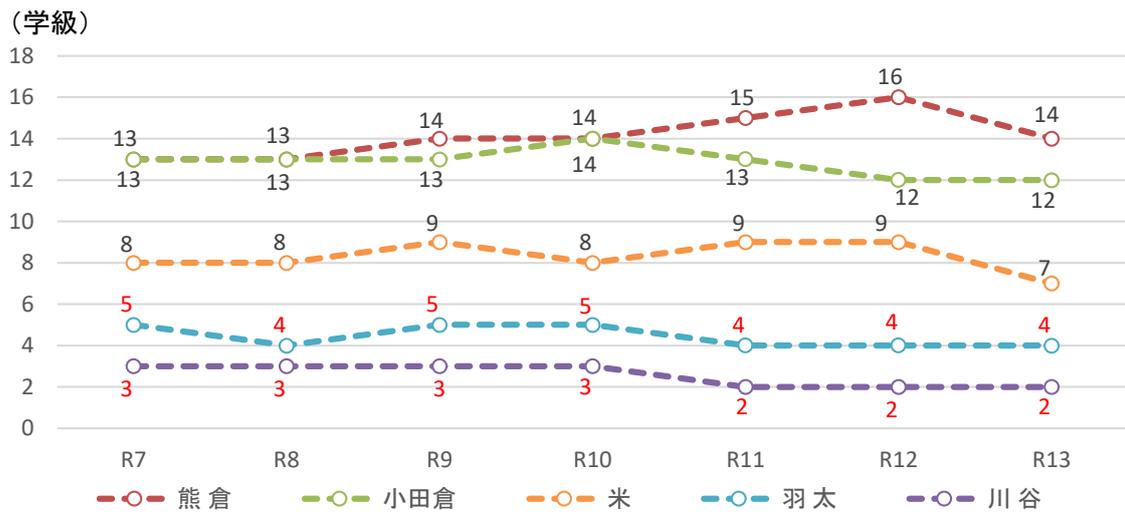


図 小学校児童数の推移・推計

出典:西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計



※赤字は複式学級

図 小学校学級数の推計

出典:西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計

② 中学校

西郷村の中学校の生徒数は、令和5年までは増加傾向となっていました。令和5年の580人をピークに横ばいとなり令和7年度は573人となっています。今後は、緩やかな減少傾向となると見込まれています。

学級数をみると、西郷第一中学校は、令和7年度は11学級あり、令和9年度より令和15年度までは標準規模である12学級を確保できる見通しです。令和16年度以降は減少し、標準規模を下回る見通しです。

西郷第二中学校は、令和7年度は8学級で、標準規模の12学級を下回っています。令和9年度に9学級となりますが、これ以降は、学級数が減少する見通しとなっています。

川谷中学校は、令和7年度は3学級で、標準規模を下回るものの単式学級となっています。しかし、生徒数の減少により、令和11年度より複式学級となる見通しです。

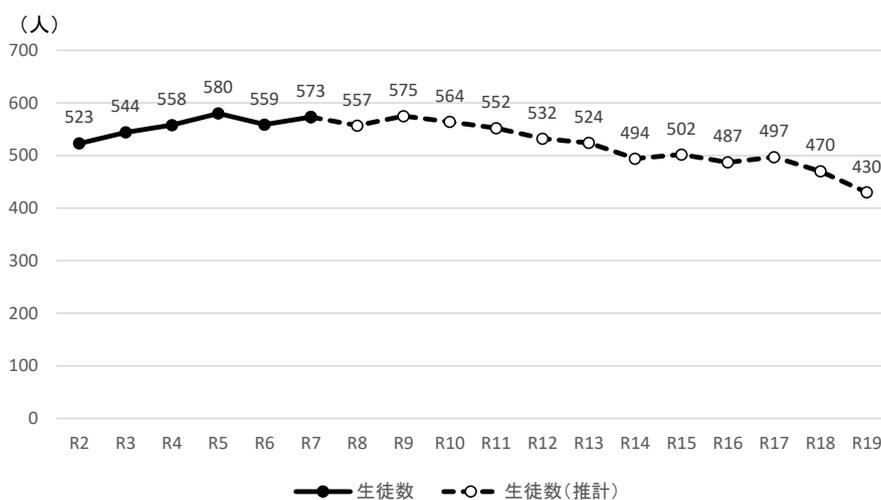


図 中学校生徒数の推移・推計

出典:西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計

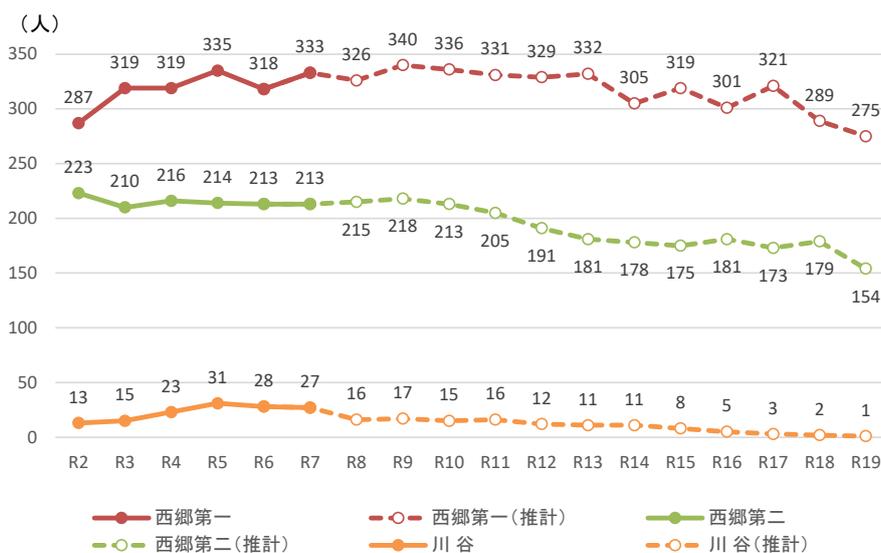
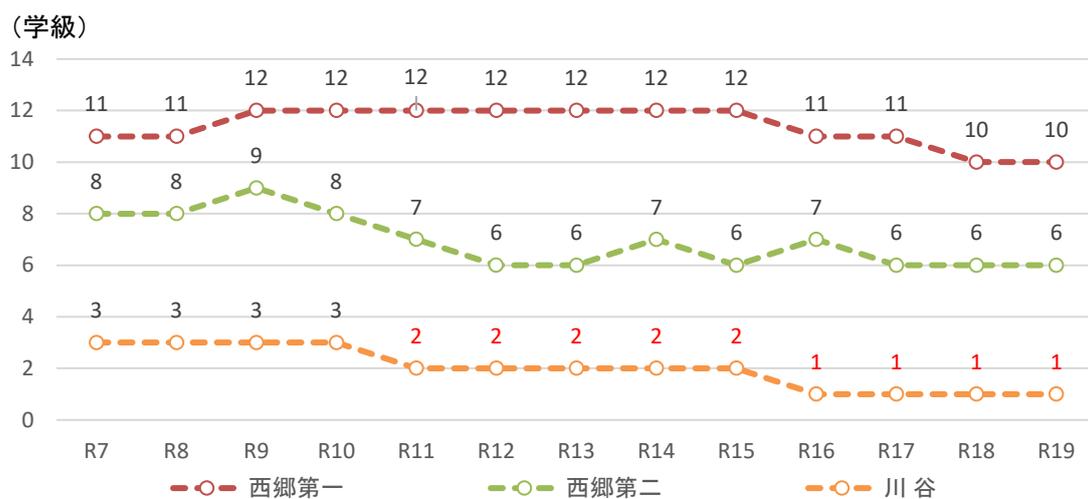


図 中学校生徒数の推移・推計

出典:西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計



※赤文字は複式学級

図 中学校学級数の推移・推計

出典: 西郷村「西郷村の教育」、学校教育課推計

③ 部活動の状況

西郷第一中学校及び西郷第二中学校でそれぞれ 12 種類、川谷中学校で 2 種類の部活動が実施されています。軟式野球部等、部員の減少により単独チームとして活動できない部活動があります。

部活動の地域展開の取組として、NPO 法人西の郷スポーツクラブを通じた地域クラブ活動や各校の外部指導者による合同部活動を実施しています。

表 私立中学校の部活動加入状況(令和 7 年現在)※3年生含む

	西郷第一	西郷第二	川谷	(参考)部活動地域展開
軟式野球部	18	4		○
女子バレーボール部	19	9		
男子バスケットボール部		12		
女子バスケットボール部	7	16		
男子ソフトテニス部	22	21		
女子ソフトテニス部	25	9		
サッカー部	27			
卓球部	50	31		○
柔道部	29	9		
剣道部		14	6	○
陸上部	29			○(長距離)
バトミントン部			14	○
水泳				○
ゴルフ				○
美術部	17	10		
吹奏楽部		20		○
器楽部	39			○
コンピュータ部	39			
科学部		42		

出典:西郷村「西郷村の教育」

④ 学校の一般開放の状況

学校施設の一般開放については、川谷小・中学校を除いた学校で実施しています。なかでも小田倉小学校、熊倉小学校の体育館の利用が多くなっています。

表 令和5年度 各学校施設の利用者数

	体育館		グラウンド		柔道場		テニスコート		合計	
	使用回数	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数	利用者数
西郷第一中学校	275	5,468	6	760	85	3,515	0	0	366	9,743
西郷第二中学校	373	7,112	113	1,937	59	2,365	26	334	571	11,748
川谷中学校										
熊倉小学校	515	9,131	0	0					515	9,131
小田倉小学校	664	15,700	127	1,605					791	17,305
米小学校	336	4,884	0	0					336	4,884
羽太小学校	196	3,381	0	0					196	3,381
合計	2,359	45,676	246	4,302	144	5,880	26	334	2,775	56,192

出典：西郷村「西郷村の教育」

⑤ 学校の位置、通学区域の状況

西郷第一中学校は、熊倉小学校、米小学校、羽太小学校の3校の通学区域を統合した区域となっています。その他の西郷第二中学校、川谷中学校は、小学校の通学区域と同じ区域となっています。

下新田地区(新白河駅周辺)は、白河市の小中学校へ通学する児童生徒が多くなっています。

川谷小・中学校では、複式学級解消を目的とした特認校制度を導入しています。川谷小・中学校の教育活動・特色に共感を持つ児童・生徒及びその保護者の申請により、入学上の条件をもとに西郷村教育委員会が年度ごとに就学を認める制度です。

表 小中学校の通学区域

中学校	小学校	固定区	共通区
西郷第一中学校	熊倉小学校	熊倉、鶴生、高助、段の原、真船、折口、追原、田土ヶ入、上折口原、下折口原	後原、西原
	米小学校	米村、間の原、長坂、赤淵、柏野、谷地中、下新田(4号国道より西北)	西原
	羽太小学校	大字羽太一円	
西郷第二中学校	小田倉小学校	上新田、原中、山下、中島、上野原、大平、黒川、稗返、大清水、一の又、伯母沢、黒森、馬場坂、下新田(4号国道より東南)	後原、下芝原
川谷中学校	川谷小学校	川谷、芝原上、由井ヶ原、甲子	下芝原

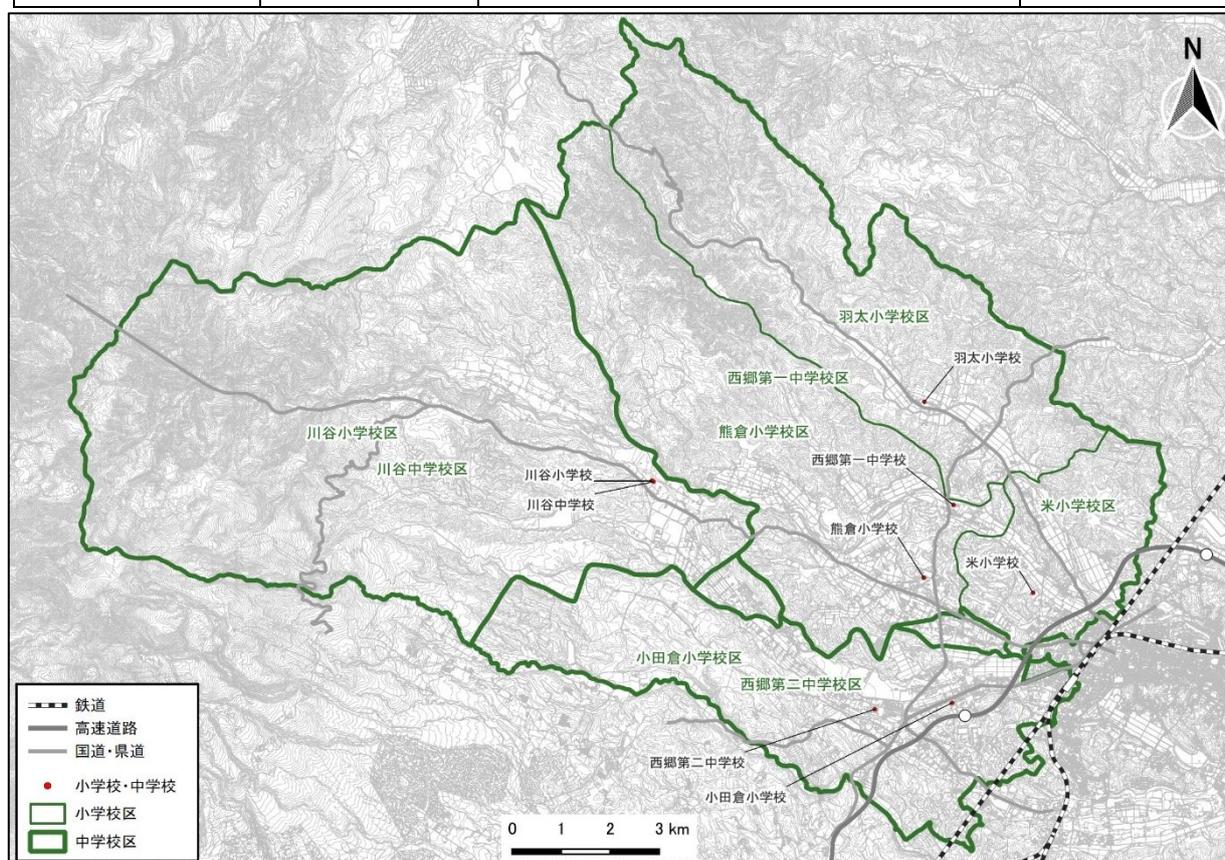


図 小中学校の位置・学区

出典:西郷村「通学区域一覧」

(3)各学校の沿革・特徴

① 熊倉小学校

【基礎データ(令和7年度)】

小学校名	区分	児童数・学級数								教職員数									
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	教員数					職員数				計
										校長	教頭	教諭	養護教諭	助養護教諭	講師	職員	事務	用務員	
熊倉	児童数	55	68	63	59	67	68	30	410	1	1	22	1	0	6	1	1	0	33
	学級数	2	3	2	2	2	2	5	18										

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月4日)

学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は多く、少ないことによる問題、課題はない。 ・1クラスあたりの人数が多いため、教室が手狭である。教室数も不足しており、特別支援学級が増えた場合教室が足りない。 ・地域に住んでいる方に協力いただき田植え・稲刈り体験を行っている。田植え・稲刈りを指導いただく方、田を貸し出している方、田を管理していただく方など、多くの地域住民に協力いただいている。 ・学校の周辺にある里山に散策し、自然を学ぶような取り組みもしている。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・一般出入口は職員室から見える位置にあるため管理しやすいが、死角となる場所も多い。一部防犯カメラを設置し役場からも監視できる形にしているが、校舎裏手の駐車場など防犯カメラがない場所もある。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・問題・課題としては特にならない。 ・教育委員会には早い段階から生徒一人一台のタブレットやWi-Fi環境を整えていただいた。
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・空き教室がないため、教材等を収納する部屋が不足している。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特設部活動として陸上や合唱がある。 ・学校の活動に対し地域の方は非常に協力的であるが、高齢化による担い手確保が課題である。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・校区が広いので、スクールバスで登下校している生徒が20~30人ほどいる。 ・週に1回は集団下校を実施している。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積(m ²)
管理教室棟	H4	RC造	2	2,911
教室棟	H4	RC造	2	1,512
屋内運動場	H7	RC造	2	1,263
地域学校連携施設	H7	RC造	1	184



【建物・屋外施設の状況】

建物	施設の老朽化が進んでおり、雨漏りが発生している。(都度改修対応は行っている。)天井に雨漏りあとが多くみられる。
屋外施設	学校の入口に移動式の車止めを設置しているが、学校の許可なく移動されてしまうことがあるなど、対策が不十分などところがある。

② 小田倉小学校

【基礎データ(令和7年度)】

小学校名	区分	児童数・学級数								教職員数										
										教員数					職員数					計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計	校長	教頭	教諭	養護教諭	助教諭	養護	講師	職員	事務	用務員	
小田倉	児童数	53	49	64	62	65	72	32	397	1	1	23	1	0	2	1	1	0	30	
	学級数	2	2	2	2	2	3	5	18											

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月5日)

学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が多い。1クラスあたりの人数も多いため、担任の負担が大きい。 ・地元の家庭や転勤族、外国からの家庭など、多様な家庭の要望に答える必要があるため、対応が難しい。 ・(児童数が多いため)授業では多様な考えに触れながら学習ができる。 ・(児童数が多いため)生徒間でのさまざまな関わりができ、人間関係を学ぶ機会が多い。 ・縦割り班の活動を行っている。 ・吹奏楽、合唱、陸上の特設クラブがある。 ・2年に1回学習研究の機会を設け、学習環境の向上に力を入れている。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に施錠しているが、遅れて登校する生徒のために一部鍵を開けている。 ・施設が老朽化しており、破損によるけがなどの危険性がある点が課題である。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にタブレットを持ち帰り学習するような取り組みを検討しているが、実施には至っていない。
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数が増えると担任の負担が軽減される。 ・体育館が狭く、合唱発表会など保護者を入れて開催することが難しい。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特設部活動の地域移行を検討している。教職員と地域の指導者が連携しながら活動できる体制ができると良い。(教職員が1時間ほど指導し、その後は地域指導者に引き継ぐ など) ・地域の指導者確保や、学校からの移動が課題である。 ・PTA 本部は積極的に活動していただいているが、積極的に活動する方とそうでない方の温度差も見受けられる。 ・見守り隊や読み聞かせなど地域住民の協力は大きいですが、高齢化が進んでおり、若い世代の担い手確保が課題である。 ・ミシンボランティアとして地域住民に協力いただいている。ミシンを使ったことのある世代が高齢化しているため、存続が課題である。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスを運行しており、40人ほどが利用している。 ・交通量の多い国道に面した学校であるため、通学時の事故など危険性が高い。 ・雨、雪の日は送迎の車で周辺道路の渋滞が発生する。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積 (㎡)
教室棟	S55	RC造	3	1,893
管理教室棟	S55	RC造	3	1,580
ボイラー室	S55	RC造	1	70
教室棟	S55	RC造	3	487
屋内運動場	S55	S造	2	745
屋内運動場	S45	S造	2	95
渡り廊下	S55	W造	1	50
食堂	S55	S造	1	651



【建物・屋外施設の状況】

建物	築年数が経過しており、ところどころ汚損が見られるが、不具合が発生次第都度対応を行っている。屋内運動場は築55年が経過している。
屋外施設	令和7年に行われた遊具点検では若干の塗装剥がれが確認されているが安全上の問題はない。 他校と比べ校庭が狭く北側となっているため、日中は校舎の影がかかる。

③ 米小学校

【基礎データ(令和7年度)】

小学校名	区分	児童数・学級数								教職員数									
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計	教員数					職員数				計
										校長	教頭	教諭	養護教諭	助養護教諭	講師	職員	事務	用務	
米	児童数	39	29	33	39	31	35	4	210	1	1	13	1	0	1	1	1	0	19
	学級数	2	1	1	2	1	1	2	10										

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月4日)

学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一クラスあたりの人数が多く、担任の抱える負担が大きい。 ・平成12年にビオトープを整備しており、自然にふれながら学習ができる。 ・縦割り班を構成し、授業や活動に取り組んでいる。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・入口の数は多いが、1Fの出入り口は基本的に施錠しており放課後の出入り口は一つに限定しているため、セキュリティ面での大きな問題はない。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境が整備されているが、場所によってネットワークにつながりにくいところもあるため、注意が必要。
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館で学習発表会等を実施するため、プロジェクターがあると良い。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上部の特設クラブがあるが、十分な練習機会を取ることが難しいため、規模の縮小を検討している。 ・見守り隊の高齢化が課題であり、若い世代の担い手確保が課題である。 ・PTAは協力的だが、協力していただく人数は減少している。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・バスや自転車での通学はない。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積(m ²)
教室棟	H2	RC造	2	2,083
教室棟	H3	RC造	2	1,317
屋内運動場	H3	RC造	2	837
渡り廊下	H23	S造	1	30



【建物・屋外施設の状況】

建物	<p>建物は築30年程度経過しており、ところどころ外壁の汚れが目立つ。屋内運動場と渡り廊下の接続部分で雨漏りが発生しており、床材の発生が進行している。</p>
屋外施設	<p>令和7年に行われた遊具点検では若干の塗装剥がれが確認されているが安全上の問題はない。</p> <p>南西側の里山空間を活かしビオトープが整備されている。</p>

④ 羽太小学校

【基礎データ(令和7年度)】

小学校名	区分	児童数・学級数								教職員数										
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計	教員数						職員数				計
										校長	教頭	教諭	養護教諭	助教諭	養護	講師	職員	事務	用務員	
羽太	児童数	6	7	11	9	4	10	0	47	1	1	5	1	0	1	1	0	0	10	
	学級数	1	1	1	1		1	0	5											

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月4日)

学校教育	児童数が少ないことによる問題、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の関わりが限定されてしまうため、人間関係を学ぶ機会が少ない。 ・授業等で多様な考えに触れることができない。 ・体育の授業など、人数が必要な授業の実施が難しい。 ・修学旅行に参加する人数が少なく、一人当たりのバス代が高額になる。
	児童数が少ないことによるメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と職員全員が顔見知りであるため、生徒一人ひとりに寄り添うことができる環境にある。 ・生徒間での縦のつながりがうまれる。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・1～6年生で構成される縦割り班を設け、掃除や運動会などの行事などに取り組んでいる。 ・里山での自然体験を行っている。 ・県の無形文化財である念仏踊りを学び、村の文化祭で披露する機会があった。総合的な学習の一環で行っている。
学校の施設	・昇降口をバリアフリー化にして欲しい	
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・有効に活用しており、課題はない。 ・ICT支援員の方に授業支援や不具合対応などしていただき、助かっている。 	
望まれる設備等	・教室は十分数ある。	
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上の特設部活動があり、月に2,3回程度活動している。 ・地域の見守り隊の高齢化が進んでおり、若い世代の担い手確保が課題である。 	
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	・基本的に徒歩での通学である。遠方に住んでいる生徒は、バス(車両は村所有の乗用車、運転は委託している)での登下校である。	

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積(m ²)
校舎	S60	RC造	2	1,721
屋内運動場	S50	S造	1	560
屋内運動場(プール管理棟)	S51	W2造	2	95



【建物・屋外施設の状況】

建物	建物は築年数が経過しており、汚損が見られる。
屋外施設	令和7年に行われた遊具点検では若干の塗装剥がれが確認されているが安全上の問題は無い。

⑤ 西郷第一中学校

【基礎データ(令和7年度)】

中学校名	区分	生徒数・学級数					教職員数										
		1年	2年	3年	特別支援学級	計	教員数						職員数				
							校長	教頭	教諭	養護教諭	助養護教諭	栄養教諭	講師	職員	事務員	その他	
西郷第一	生徒数	109	87	121	16	333	1	1	23	1	0	2	4	1	1	1	35
	学級数	4	3	4	3	14											

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月4日)

学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は適正な規模であり、少ないことによる問題、課題はない。 ・音楽系では、多人数が必要な吹奏楽部ではなく、少人数でも活動が可能な弦楽器の部がある。 ・ソフトテニス部をはじめ、運動系の部活動に力を入れている。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口が複数あるため、管理しにくい裏口の防犯が課題である。 ・体育館は一般にも貸し出しており、社会人の団体がフットサルやバレーなど利用している。定期利用している団体であるため、セキュリティ上の危険性は低い。
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎が古く、老朽化が進行している。 ・特別支援学級の教室数が少なく狭い。 ・普通教室が狭く、ロッカーを新設したことによってさらにスペースが狭小化している。 ・職員室も狭く、ALTや支援委員などのスペース確保が難しい。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・野球部が他校と合同チームを組んだことがあった。 ・陸上部の長距離は、部活動の地域展開が進んでいる。 ・PTAが年に2回環境整備を行っている。 ・祭りなどの伝統行事は行われていない。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車での通学がほとんどである。冬季は保護者が車で送迎している家庭も多い。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積(m ²)
教室棟	S51	RC造	3	1,191
教室棟	S52	RC造	3	776
教室棟	S52	RC造	2	1,114
管理棟	S53	RC造	2	901
屋内運動場	H24	RC造	2	2,420



【建物・屋外施設の状況】

建物	教室棟、管理棟は築年数が経過しており、汚損が見られる。令和6～7年に雨漏りや外壁のクラックの改修を行っている。
屋外施設	校庭、テニスコート、野球場は状態がよく、照明も設置されている。

⑥ 西郷第二中学校

【基礎データ(令和7年度)】

中学校名	区分	生徒数・学級数					教職員数											
		1年	2年	3年	援特学級支	計	教員数							職員数				計
							校長	教頭	教諭	教諭養護	助教諭養護	教諭養	栄養	講師	職員事務	用務員	その他	
西郷第二	生徒数	69	58	69	17	213	1	1	15	1	0	0	2	1	1	2	24	
	学級数	3	2	3	3	11												

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月5日)

学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は少なくとも、大きく生徒数が増減することもない。 ・教員数に対して部活動数が多いため、複数顧問制がとれておらず、十分な指導環境ではない。 ・身近な自然が豊かであり、学校専用の小さい丘がある。 ・通学路のゴミ拾いや少年自然の家でのフィールドワーク、ブリティッシュヒルズでの体験を通して自然に触れられる活動を行っている。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化しており、破損によるけがの恐れがある点が課題である。
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境が整備されているが、オンライン接続が場所によって安定しないため、繋がりやすい場所に移動するなどして対応している。
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホールにエアコンがあると良い。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担を減らすためにも地域展開を推進していきたい。 ・外部コーチが指導に来ている部活もあるが、主な指導は教員が行っている。 ・地域の方は非常に強力的である。 ・村の地域連携事業として、地域の方が校庭やランニングロードの整備を行っている。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・通学手段は、自転車、徒歩、送迎の3つが主である。 ・保護者の送迎で通学する生徒が増えているため、体力、自立性の育成を考慮すると望ましくない面もある。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積(m ²)
教室棟	H11	RC造	2	2,706
管理棟	H11	RC造	2	411
教室棟	H11	RC造	2	2,053
屋内運動場	H14	RC造	2	1,838
地域連携施設	H14	RC造	1	141
柔道場	H18	RC造	1	148



【建物・屋外施設の状況】

建物	村の中では最も新しい校舎であるが、築26年経過し、外壁の細かなクラックや水栓の老朽化等、風合いが生じてきている。
屋外施設	グラウンドやテニスコートは状態がよく、照明塔も設置されている

⑦ 川谷小学校・中学校

【基礎データ(令和7年度)】

小学校名	区分	児童数・学級数								教職員数									
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	援特別学級	計	教員数					職員数				計
										校長	教頭	教諭	教養諭	助養諭	講師	職員	事務	用務員	
川谷	児童数	4	4	3	5	7	2	0	25	1	1	3	1	0	1	0	0	0	7
	学級数	1		1		1		0	3										

中学校名	区分	生徒数・学級数						教職員数											
		1年	2年	3年	援特別学級	計	校長	教頭	教諭	教養諭	助養諭	教養諭	栄養諭	講師	職員	事務	用務員	その他	計
川谷	生徒数	7	7	13	0	27	1	1	7	0	1	0	3	1	1	1	0	15	
	学級数	1	1	1	0	3													

【ヒアリングの概要】(実施日 令和6年12月5日)

学校教育	児童生徒数が少ないことによる問題、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や音楽等の集団学習の機会、部活動の種類が少ない。部活動においては部員が少ないことにより活動の幅が狭まってしまう。(団体戦に出場できないなど) ・多様な考えを学ぶことができない。 ・人間関係で問題が発生した際に孤立する可能性がある。 ・大人がフォローできる場面が多いため、子どもが大人に頼りがちになり自主性を学ぶ機会が減ってしまう。たくまさが育たない。
	児童生徒数が少ないことによるメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに目が届き、声掛けがしやすい。 ・自由度の高い学習が可能である。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・阿武隈川の河口にある荒浜小学校との交流を行っている。荒浜小からきた児童は、阿武隈川の源流見学やバターづくりなどを行い、川谷小の児童ははらこめしづくりや漁船体験を行う。 ・地域の方の協力のもとじゃがいもを育て、西郷村のまるごと西郷館で販売している。 ・ルバーブを使った香水作り体験を実施した。 ・スナッグゴルフの全国大会に出場した。
学校の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や体育館の一般開放はしていない。 ・防犯面では、侵入しようと思えば入れてしまう場所が多い点が課題である。定期的に警察に見回りをしてもらっている。 	
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを家に持ち帰った時の活用の仕方や授業以外での活用が課題となっている。 	
望まれる設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館よりも気軽に使えるような全体で集まれる場所(多目的ホールなど)があるとよい。 ・現状のホールは空調設備がなく活用できていない。 ・小学校の吹き出し暖房設備が停止している。 ・美術室と技術室が兼用であり手狭である。 	

家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域展開を積極的に進めていく。 ・川谷に残らず、大規模校に子どもを通わせたいという家庭も増えているため、若い人が減少している。 ・PTA として夏まつりを開催していたが、地域に移管したため現在は主体ではない。地域の住民が主体となって活動していただくことが理想である。 ・川谷学区を元気にする会によって「も～も～スクール」を開催し、酪農の PR や川谷小学校への入学を呼び込む活動をしている。
通学、放課後、長期休暇における過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスは小学校に合わせた時間設定のため、部活に取り組んでいる中学生は送り迎えが通学手段のほとんどである。 ・学校の前面道路が交通量が多く危険である。

【建物概要】

施設名	建築年度	構造	階数	延床面積 (㎡)
小学校校舎	S63	RC 造	2	1,541
屋内運動場	S45	S 造	2	610
中学校校舎	S63	RC 造	2	1,121



【建物・屋外施設の状況】

建物	<p>築年数が経過しており、ところどころ汚損が見られる。</p> <p>小学校校舎のみセントラルヒーティングが故障している。エアコンとブルーヒーターを併用している。</p>
屋外施設	<p>令和 7 年に行われた遊具点検では若干の塗装剥がれが確認されているが安全上の問題はない。</p>

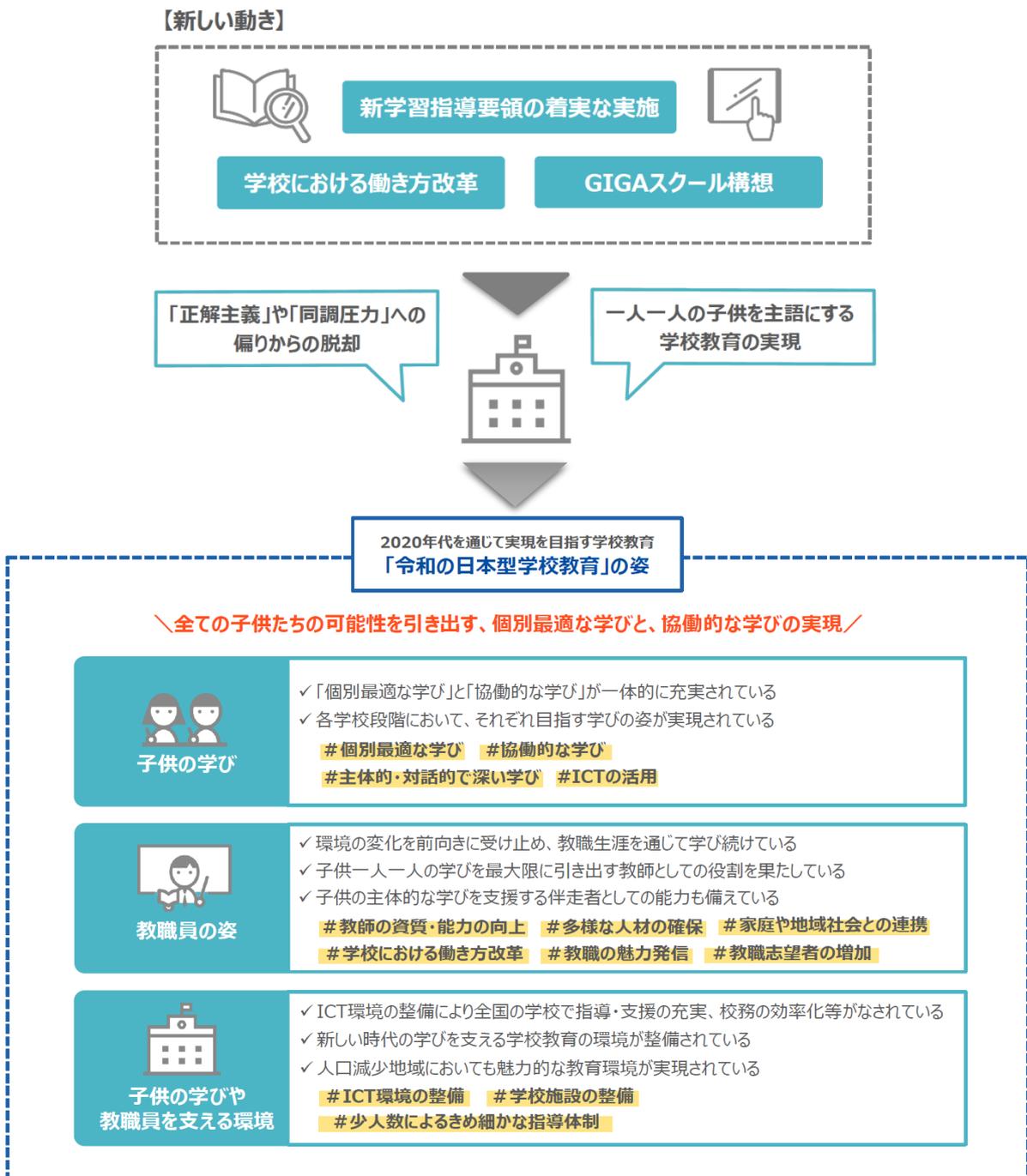
第2章 学校教育環境を取り巻く環境変化

(1) 令和の日本型学校教育の姿

中央教育審議会では、令和3年に、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」が取りまとめられました。

答申では、急速に変化する社会(Society 5.0、情報化、少子高齢化など)に対応し、すべての子供たちが自分の可能性を最大限に発揮できるような教育の在り方を示しています。

- 個別最適な学び:一人ひとりの子供の特性や状況に応じた学びの提供
- 協働的な学び:他者とともに学び合い、社会的な力を育む教育

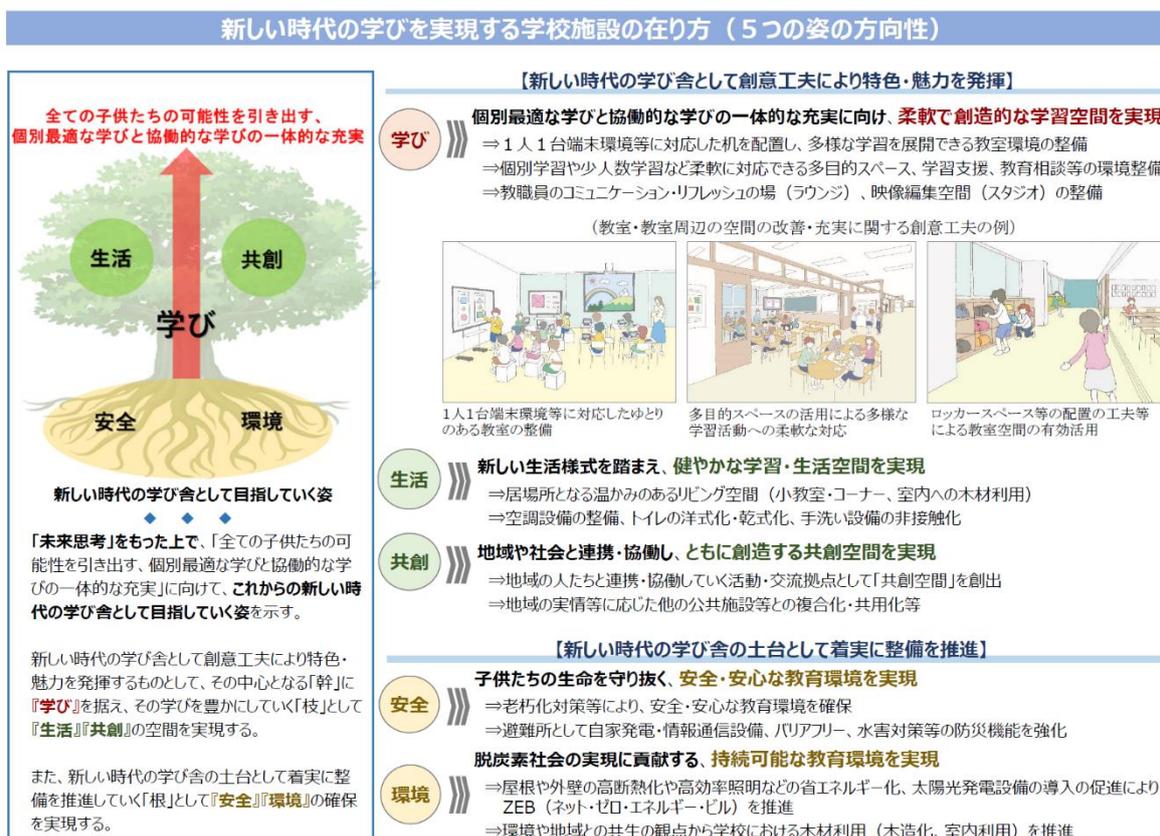


出典:中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を 目指して(答申)(令和3年)」

(2)新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方

令和4年に「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」より、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告が示されました。

Society 5.0 や GIGA スクール構想など、急速に変化する社会に対応した未来志向の学校施設のビジョンを示すものです。



出典：学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告概要版

(3)学校施設のバリアフリー化の推進

令和2年度「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」が改正され、公立小中学校等施設の新築・改築を行う場合にバリアフリー基準への適合が義務化されました。（既存の建築物は適合の努力義務）

これをうけて、文部科学省では、令和7年度末までの5年間に緊急かつ集中的に整備を行うための国の整備目標が定め、その財政支援を強化しています。

第3章 村民の意向

(1)PTA・教職員ワークショップ

① ワークショップの概要

【目的】

西郷村の「独自のよさ」や「今後伸ばしていくべき点」といった特徴を切り口とし、それらを活かした教育環境を形成していく中でどういった取り組みを進め、強化していく必要があるのか、という視点から PTA・教職員それぞれのご意見をいただき、西郷村の教育環境の将来像を明らかにしました。

基本構想では、WS で明らかになった将来像に対して解決していく必要のあるギャップを「西郷村学校教育環境の抱える課題」の中で整理し、学校環境のあり方へ繋がります。

【開催概要】

	日時		場所	参加者数
熊倉小学校	令和 7 年 2 月 18 日	14:30-16:30	会議室	13 名
小田倉小学校	令和 7 年 2 月 26 日	15:00-16:30	食堂	11 名
米小学校	令和 7 年 2 月 28 日	15:00-16:30	視聴覚室	12 名
羽太小学校	令和 7 年 2 月 13 日	18:00-19:30	コミュニティルーム	10 名
西郷第一中学校	令和 7 年 2 月 21 日	18:00-20:00	図書室	16 名
西郷第二中学校	令和 7 年 2 月 17 日	16:00-18:00	会議室	8 名
川谷小・中学校	令和 7 年 2 月 15 日	10:35-12:25	小学校図書室	9 名



写真 熊倉小学校



写真 羽太小学校

② ワークショップの結果まとめ

【テーマ1 西郷村の教育環境の良いところ・特徴は？】

教育環境の特徴としては、西郷村の学校は ICT 設備や自然学習環境が充実し、少人数の利点を活かしたきめ細やかな指導が行われているなどの意見がありました。

地域と学校の連携に関しては、地域住民の見守り隊やボランティア活動が活発で、地域伝統の継承や職業体験など、地域と学校の連携が強いなどの意見がありました。

家庭と学校の連携に関しては、保護者は学校行事や登下校の送迎、家庭学習支援に積極的に協力しており、教育活動を支えているなどの意見がありました。

学校	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットや電子黒板などのICT関連設備が充実しており、デジタルを活用した教育環境が充実している。 ●トイレが整備されており、子どもたちの快適な学校生活につながっている。 ●図書司書やALT、ICT支援員などの専門人材が充実しており、学校環境の向上や教員の負担軽減につながっている。 ●小学校でなすかしの森でのセカンドスクールが実施されており、子どもたちが多様な学びを得られる機会がある。
各校の特徴的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数校として、人数が少ないからこそ一人ひとりにきめ細やかな指導ができる（羽太小、川谷小・中） ・小中一貫校で、児童と生徒の関わりが多く、教員間での連携が充実している（川谷小・中） ・小学校と同じ人間関係の中で学習ができる（西郷第二中） ・文化祭を通して子どもの様々な成長が見られる（西郷第二中） ・くまっこの森を活用した自然学習ができる（熊倉小） ・フェスティバル委員会を中心としたイベントを実施している（西郷第一中） ・1学年のクラスが多く、多様な人と関わる機会が多い。（小田倉小） ・ピオトープを活かした自然学習ができる（米小）
地域	<ul style="list-style-type: none"> ●登下校時の見守り隊や読み聞かせボランティアなど、地域住民が積極的に教育に関わっている。 ●農業体験や地域探検、職業体験など、西郷村の魅力を子どもたちが体験しながら学べる機会がある。 ●新幹線や高速ICがあるなど交通の便がよく、他地域と連携した様々な取り組みが行える可能性がある。 ●学校の備品や設備等に対して村の教育委員会が迅速に対応している。 ●教育に対する予算が多く、給食費の無料化や施設整備といった支援が充実している。
各校の特徴的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が連携し地域伝統の継承（天道急仏踊）を行っている。（羽太小学校） ・PTAを卒業された方も学校行事や奉仕活動に参加している（川谷小・中） ・児童館や子ども教室など放課後の活動場所が充実している（熊倉小） ・児童館が校舎と近く、放課後安心できる（小田倉小） ・ミニバスや駅伝、スナックゴルフなど地域でのスポーツが盛ん（米小）
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事や奉仕作業など、教育に対して積極的に協力していただいている保護者の方が多い。
各校の特徴的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学区外の生徒が多いが、保護者が送迎に協力してくれている（川谷小・中） ・保護者と先生との関係が良い（西郷第二中） ・ノーマディアデーに協力的（熊倉小） ・保護者の方へ教育方法等に関する共有がしやすい（西郷第一中） ・学校納入金への理解がある（西郷第一中）

図 「テーマ1 西郷村の教育環境の良いところ・特徴は？」のまとめ

【テーマ2 今後の西郷村での教育に期待することは？】

子どもたちに望む姿としては、「しなやかであきらめない心」「判断力・決断力」「主体的な行動力」など、自主性の育成が重視されました。

「学力」では、「基礎学力の定着」「協働による課題解決力」「国際化への対応力」「学力の実生活への応用」「進路選択力・夢や目標の形成」などが求められています。これに対し、ICT 活用、専門人材の配置、個別最適な学習機会、体験活動や地域連携学習などの取組が必要とされています。

「心力」に関しては、「他者理解と寛容性」「自己肯定感の醸成」「物事を大切にすること」「地域への愛着」「心身の健康」「集団内での自己実現」などが挙げられ、学年・学校を越えた交流、子ども主体の活動、相談体制の充実、居場所づくり、一定規模の集団生活などが求められています。

「体力」では、「楽しく健康的に身体を動かすこと」「十分な体力」「安全・安心な生活環境」が重視され、多様な運動機会、専門的指導、登校環境の整備、給食の質向上、セキュリティ強化、見守り体制の継続などの取組が必要とされています。

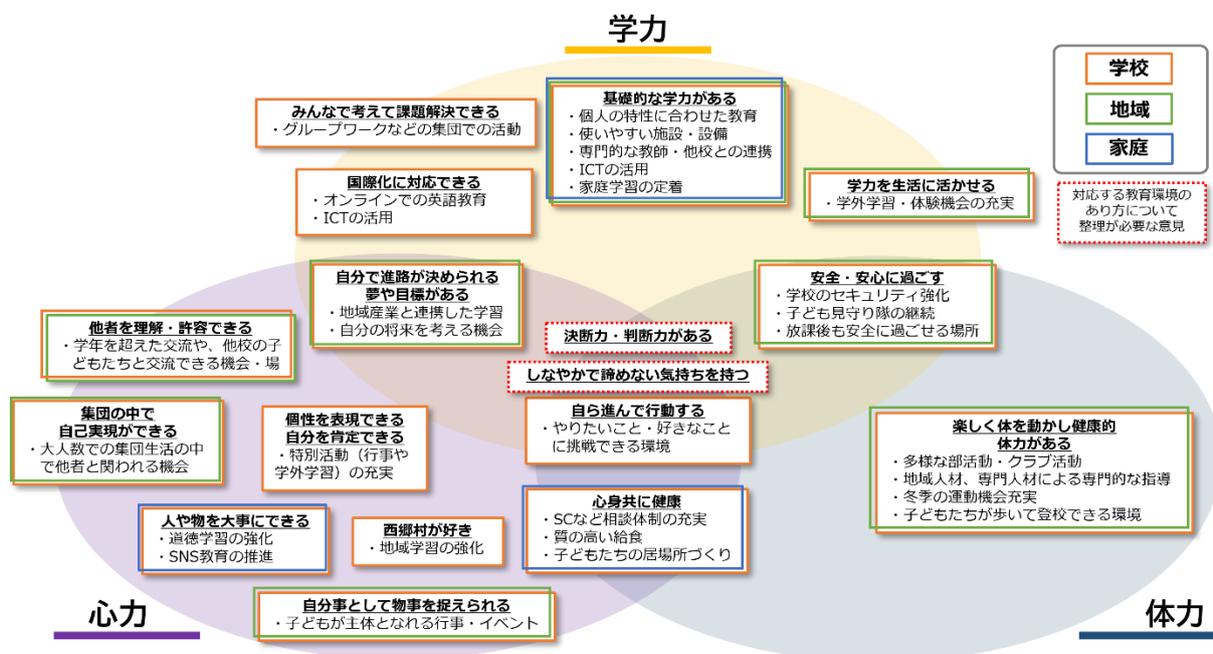


図 「テーマ2 今後の西郷村での教育に期待することは？」のまとめ

(2) 村民アンケート

① アンケートの概要

【目的】

西郷村の望ましい教育環境のあり方を検討するため、保護者の方や地域の方の教育環境に関するニーズや考え方を把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【対象者】

0歳～15歳(中学3年生)までのお子さんのいる保護者の方全員 1,666名
上記の方以外で、18歳～79歳の住民から無作為抽出した方 2,000名

【実施方法】

回答方法 回答用紙の返送・Web回答の併用
実施期間 令和7年7月16日～8月18日

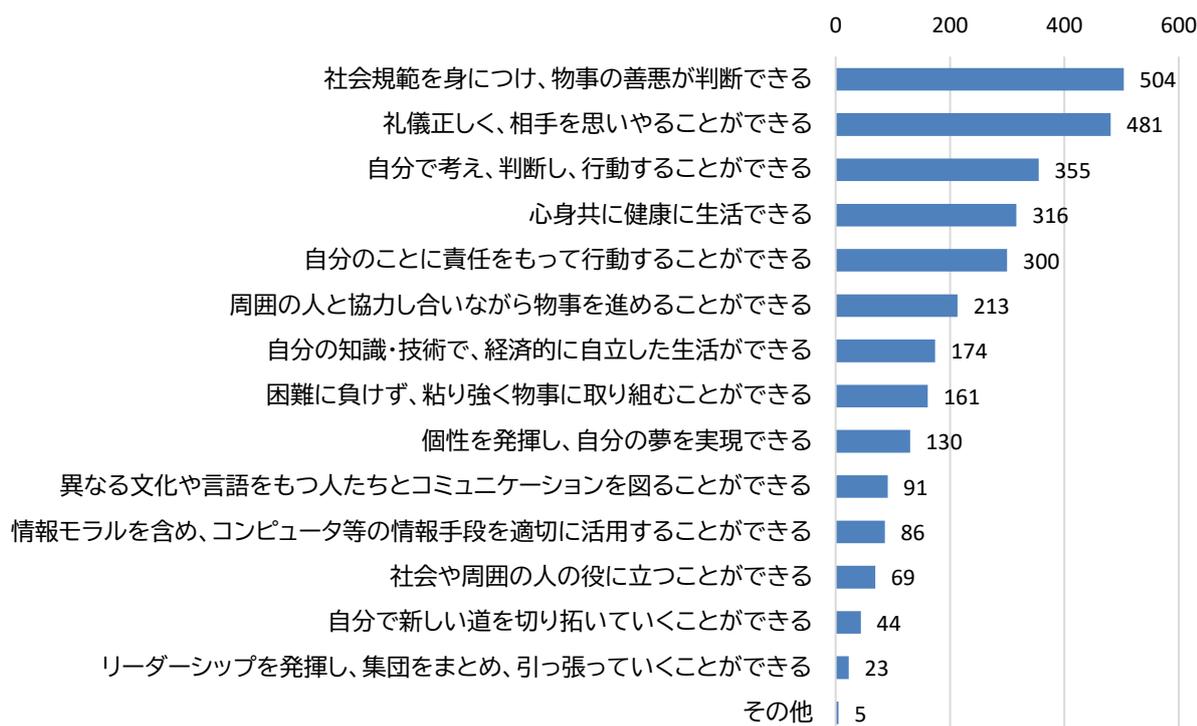
【回収率】

回収率 27.4%(3,666票配布、1,002票回収、※7通不達)

② 調査結果

(ア)あなたが期待する西郷村の子どもたちの将来の姿はどのようなものですか。次の15項目から、あなたが特に望む将来の姿を、3つまで選択してください。

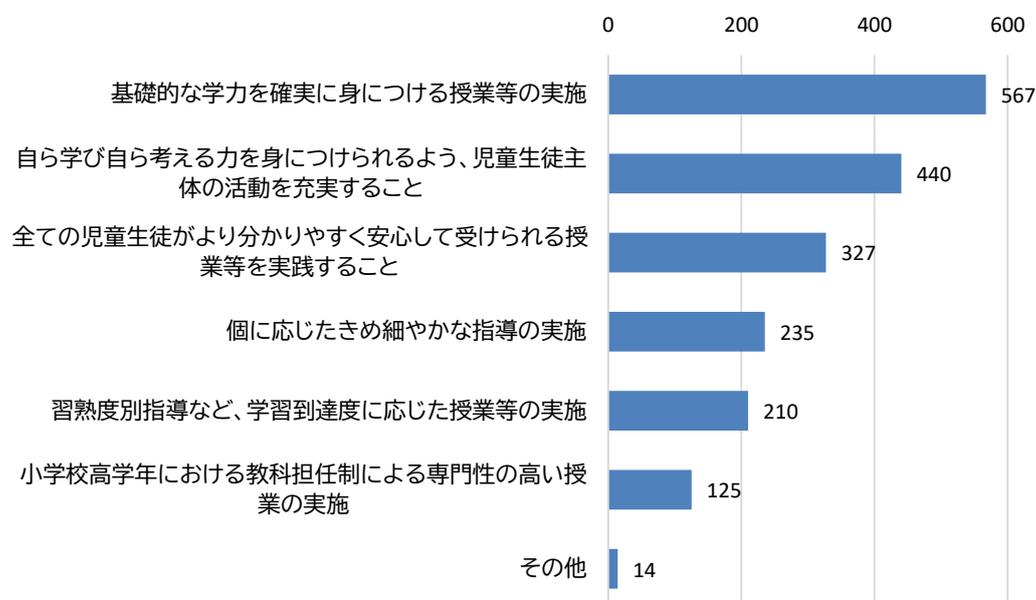
「社会規範を身につけ、物事の善悪が判断できる」、「礼儀正しく、相手を思いやることができる」など、社会性を身につけることに対する意見が多くなっています。



(イ)西郷村の小中学校において、特に力を入れて取り組んで欲しい教育は何ですか。それぞれ 2 つまで選択してください。

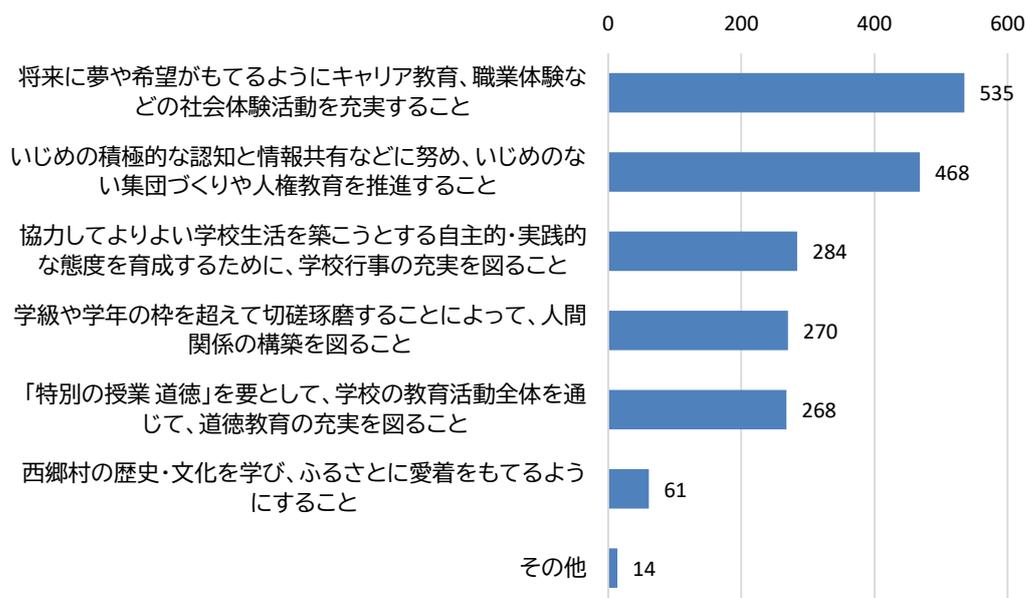
(イ)-1 学力に関する取り組み

「基礎的な学力を確実に身につける授業等の実施」が最も多く、次いで「自ら学び自ら考える力を身につけられるよう、児童生徒主体の活動を充実すること」が多くなっています。



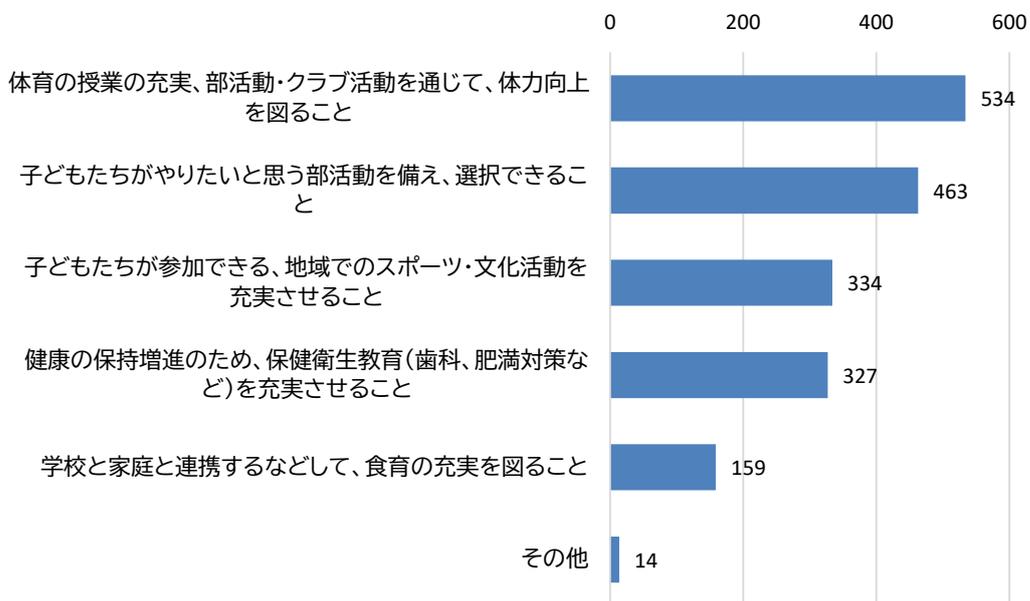
(イ)-2 心力に関する取り組み

「将来に夢や希望がもてるようにキャリア教育、職業体験などの社会体験活動を充実すること」が最も多く、次いで「いじめの積極的な認知と情報共有などに努め、いじめのない集団づくりや人権教育を推進すること」が多くなっています。



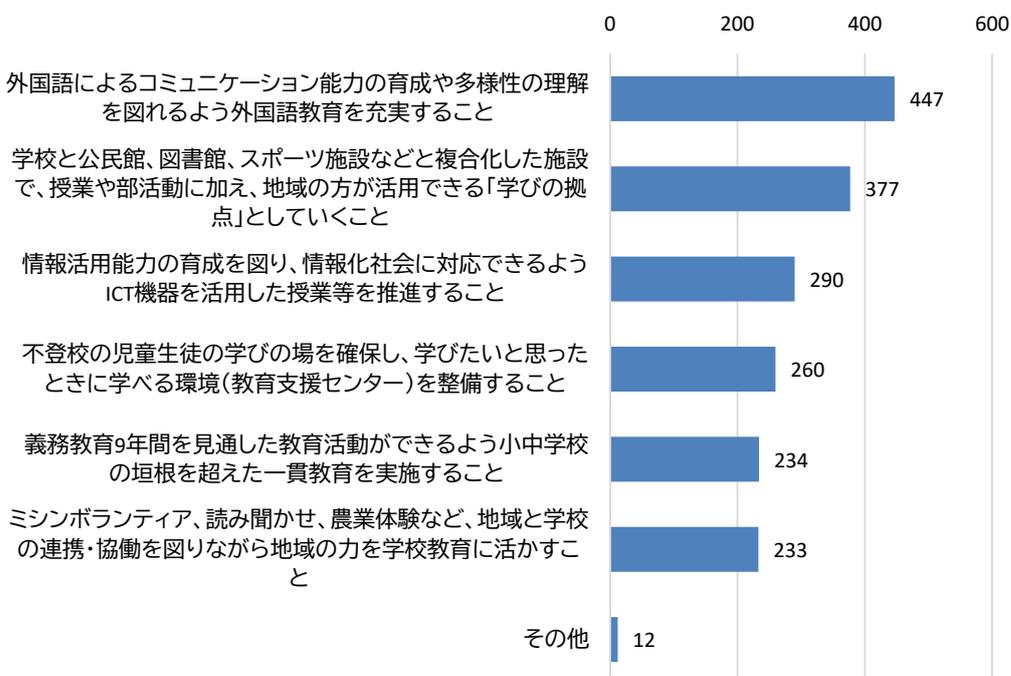
(イ)-3 体力に関する取り組み

「体育の授業の充実、部活動・クラブ活動を通じて、体力向上を図ること」が最も多く、次いで「子どもたちがやりたいと思う部活動を備え、選択できること」が多くなっています。



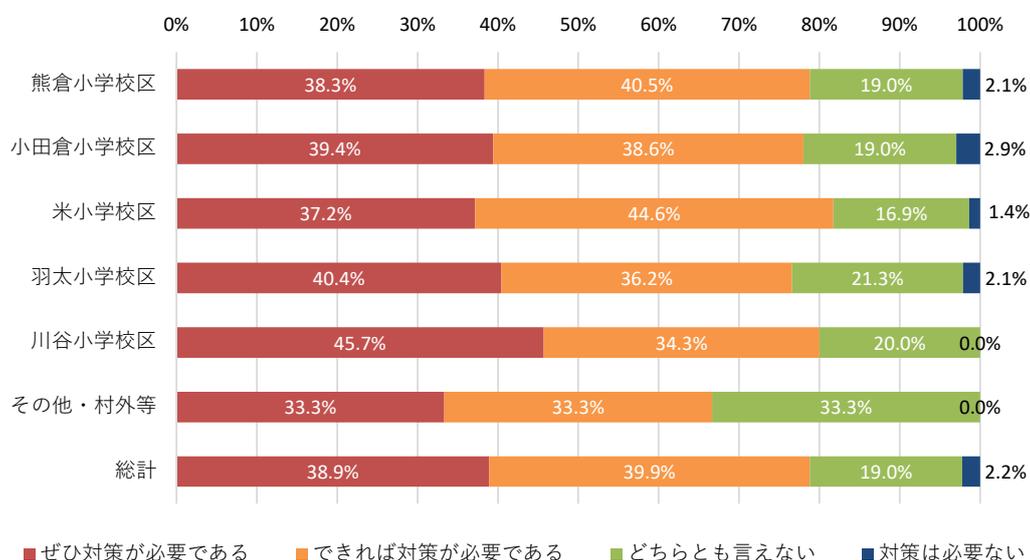
(イ)-4 特色ある取り組み

「外国語によるコミュニケーション能力の育成や多様性の理解を図れるよう外国語教育を充実すること」が最も多く、次いで「学校と公民館、図書館、スポーツ施設などと複合化した施設で、授業や部活動に加え、地域の方が活用できる『学びの拠点』としていくこと」が多くなっています。



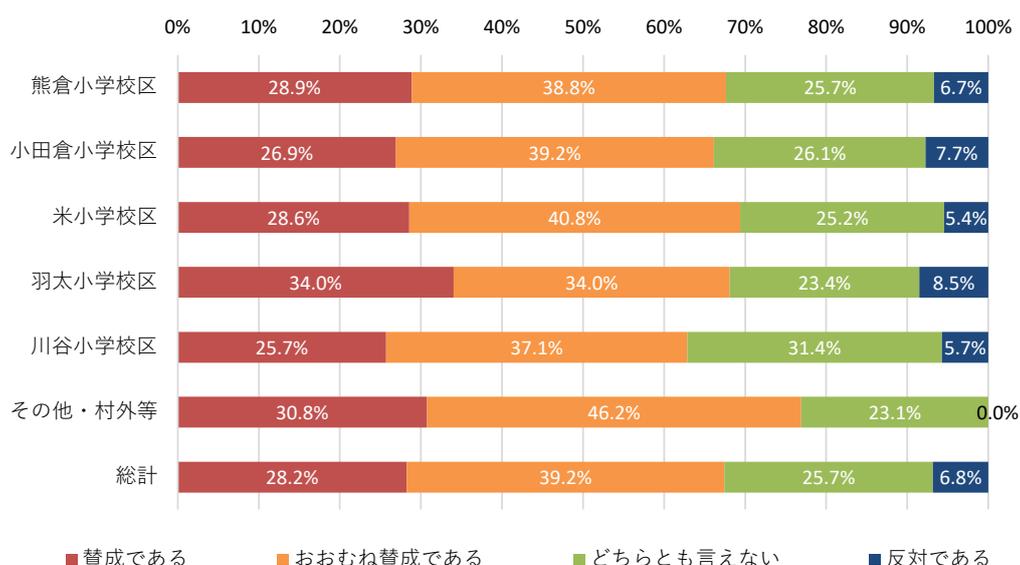
(ウ) 「西郷村の小学校における課題」(複式学級化、子どもたちの人間関係が固定化されるなど)について、あなたは対策が必要だと考えますか。(1つ選択)

全体の78.8%が「対策が必要」と回答しました。特に児童数の少ない川谷小学校区や羽太小学校区では、「ぜひ対策が必要」と考える人の割合が高くなっています。



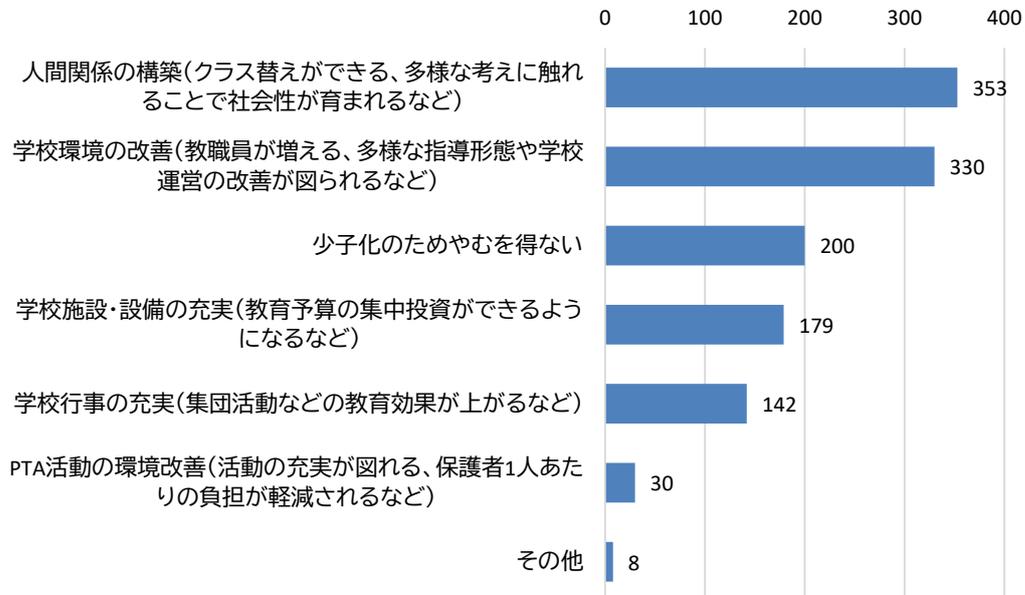
(エ) 「西郷村の小学校における課題」(複式学級化、子どもたちの人間関係が固定化されるなど)の解決策として、小学校を統合することが考えられますが、あなたは、将来的に小学校を統合することについてどう考えますか。(1つ選択)

全体の67.6%が「賛成」と回答しました。羽太小学校区で「賛成」と考える人の割合が高くなっています。米小学校区、羽太小学校区で「賛成」の割合が高くなっています。



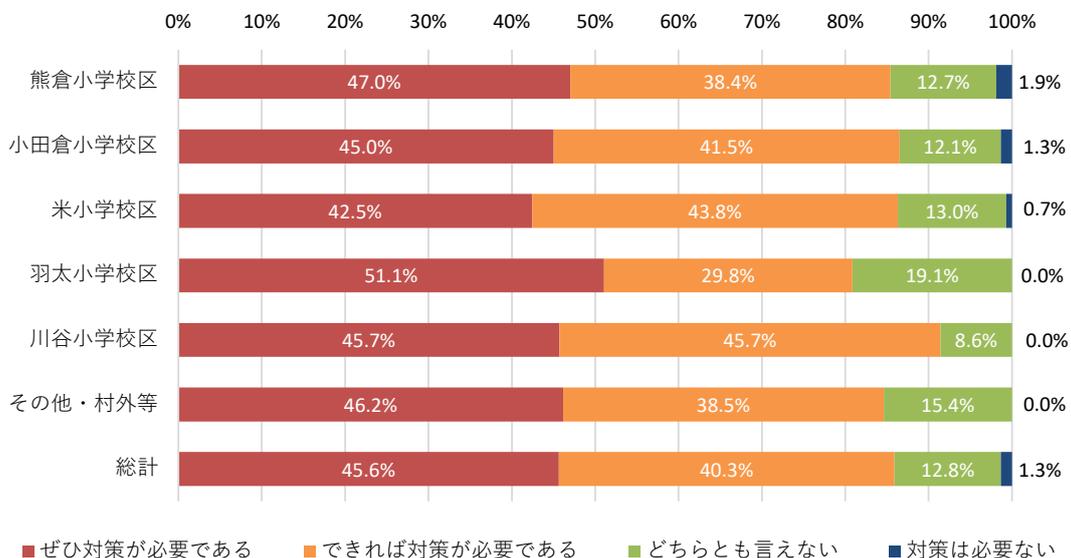
(オ) 「賛成である」、「おおむね賛成である」を選択された理由として、あなたの考えに近いものをお答えください(2 つまで選択)

「人間関係の構築(クラス替えができる、多様な考えに触れることで社会性が育まれるなど)」が最も多く、次いで「学校環境の改善(教職員が増える、多様な指導形態や学校運営の改善が図られるなど)」が高くなっています。



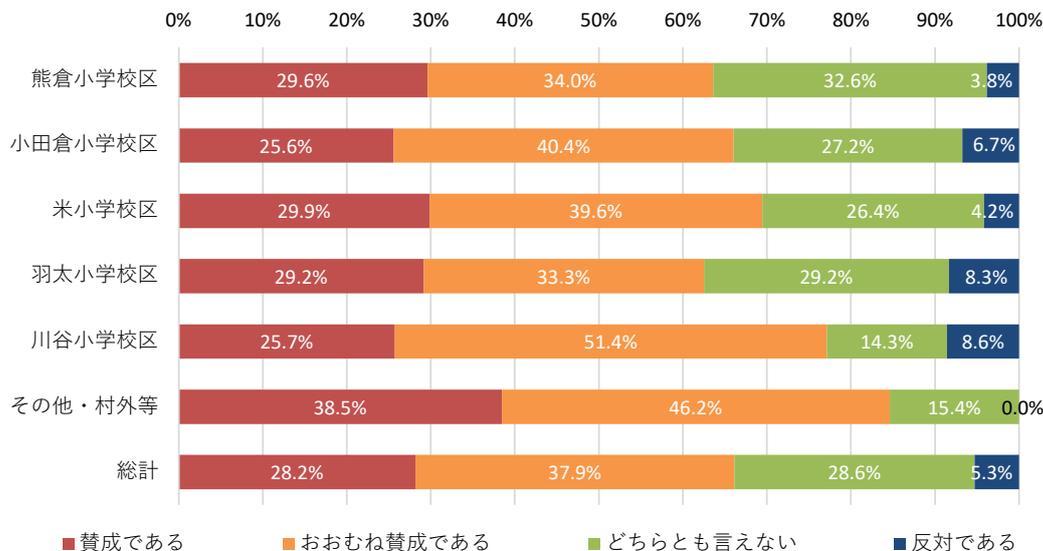
(カ) 「西郷村の中学校における課題」(教員がそろわない、部活動の人数が揃わないなど)について、あなたは対策が必要だと考えますか。(1 つ選択)

全体の 78.8%が「対策が必要」と回答しました。羽太小学校区で「ぜひ対策が必要」と考える人の割合が高くなっています。川谷小学校区では「できれば対策が必要」と考える人の割合が高くなっています。



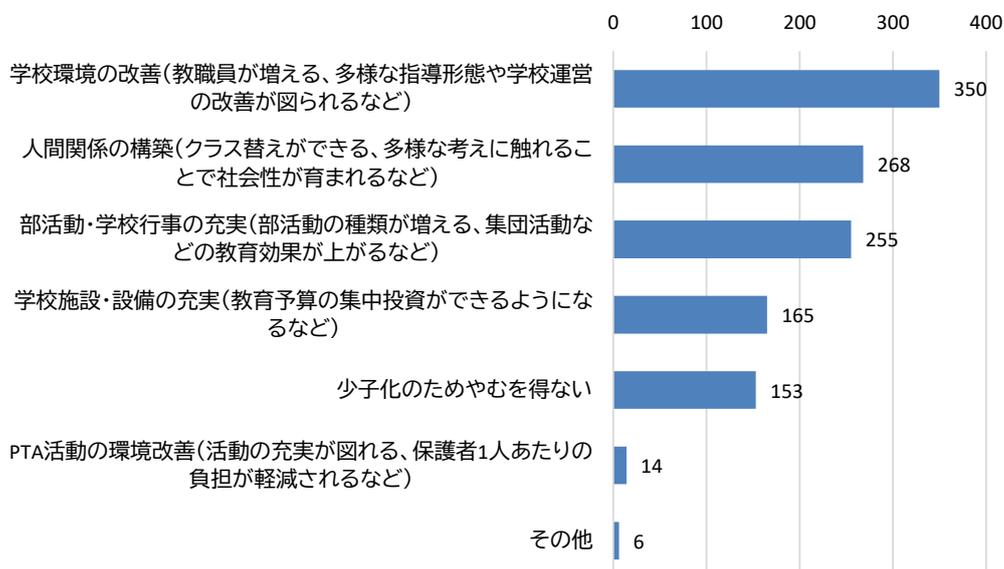
(キ) 「西郷村の中学校における課題」(教員がそろわない、部活動の人数が揃わないなど)の解決策として、中学校を統合する方法が考えられますが、あなたは、将来的に中学校を統合することについてどう考えますか。(1つ選択)

全体の66.1%が「賛成」(「賛成である」+「おおむね賛成である」と回答しました。川谷小学校区、米小学校区で「賛成」の割合が高くなっています。米小学校区で「賛成である」と考える人の割合が高くなっています。川谷小学校区では「おおむね賛成である」と考える人の割合が高くなっています。



(ク) 「賛成である」、「おおむね賛成である」を選択された理由として、あなたの考えに近いものをお答えください(2つまで選択)

「学校環境の改善(教職員が増える、多様な指導形態や学校運営の改善が図られるなど)」が最も多く、次いで「人間関係の構築(クラス替えができる、多様な考えに触れることで社会性が育まれるなど)」が高くなっています。



第4章 中学生の意向

西郷村では、児童生徒数の減少が進む中で、中学校では教科担任制の運用や部活動の実施など、生徒数の減少により学習環境の質が低下する要素が多く、早急な対応が必要となっています。

加えて、西郷第一中学校の校舎は築 49 年を経過しており、老朽化が進行していることから、安全性の確保と学習環境の改善の観点からも、中学校の対策を優先的に進める必要があります。

こうした状況を踏まえ、今後の学習環境の整備に向けて、中学生を対象としたアンケート調査およびワークショップを実施し、生徒の学習環境に対する意向を把握しました。

(1)中学生アンケート

① アンケートの概要

【目的】

西郷村の望ましい教育環境のあり方を検討するため、中学生の教育環境に関するニーズや考え方を把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【対象者】

アンケートの対象者は、中学生ワークショップに参加予定の生徒としました。

	対象者	
西郷第一中学校	3 年生	121 名
西郷第二中学校	2 年生	58 名
川谷中学校	1、2、3 年生	27 名

【実施方法】

回答方法 Web 回答

実施期間 令和7年 6 月 17 日～7 月 1 日

② 調査結果

(ア) 西郷村の学校の「ここが良い」というところを教えてください。

「学校の良いところ」に関しては、各校の評価に特徴がありました。

西郷第一中学校では、「タブレットや電子黒板などデジタル機器を使用した授業がある」(65.5%)が最も多く、次いで「部活動が活発で、みんながんばっている」(60.3%)が多くなっています。

西郷第二中学校では、「文化祭など、自分たちで考えて活動できるような行事がたくさんある」(86.2%)が最も多く、「生徒や先生の人数がちょうどよくて、親しみやすい」と「給食がおいしい」が同率(72.4%)となっています。

川谷中学校では、「他の学年の人と一緒に活動する機会がある」(81.0%)が最も多く、次いで「自然環境の中で学べる活動がある(セカンドスクール、森林環境学習など)」(76.2%)が多くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. トイレなどの学校の設備が充実している。	36.2%	60.3%	38.1%
2. タブレットや電子黒板など、デジタル機器を使った授業がある。	65.5%	67.2%	66.7%
3. 文化祭など、自分たちで考えて活動できるような行事がたくさんある。	56.9%	86.2%	66.7%
4. 図書室の先生(司書)や英語の先生(ALT)、タブレット等の活用をサポートしてくれる人(ICT支援員)がいて、学習を助けてくれる。	24.1%	41.4%	23.8%
5. 自然の中で学べる活動がある(セカンドスクール、森林環境学習など)。	26.7%	65.5%	76.2%
6. 他の学校の生徒と交流する機会がある。	9.5%	15.5%	47.6%
7. 生徒の人数がある程度いるので、協力したり競い合ったりできる。	48.3%	60.3%	42.9%
8. 生徒や先生の人数がちょうどよくて、親しみやすい。	38.8%	72.4%	66.7%
9. 他の学年の人と一緒に活動する機会がある。	19.0%	31.0%	81.0%
10. 部活動が活発で、みんながんばっている。	60.3%	60.3%	52.4%
11. 給食がおいしい。	46.6%	72.4%	42.9%
その他	1.7%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	0.0%	0.0%

(イ) 西郷村の地域での学習環境の「ここが良い」というところを教えてください。

西郷第一中学校及び西郷第二中学校は共通して、「職場体験などを通して、将来の仕事や西郷村の産業について知ることができる。」及び「登下校のときに地域の人が見守ってくれたり(見守り隊)、学校のそうじを手伝ってくれたり、地域の人が支えてくれている。」に対する評価が高くなっています。

川谷中学校では「職場体験などを通して、将来の仕事や西郷村の産業について知ることができる。」及び「農業体験や地域を探索する活動など、西郷村のよさを体験できる機会がある」に対する評価が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. 登下校のときに地域の人が見守ってくれたり(見守り隊)、学校のそうじを手伝ってくれたり、地域の人が支えてくれている。	60.3%	69.0%	42.9%
2. 家庭科のミシンボランティアなどの授業で、地域の人から教えてくれることがある。	12.1%	10.3%	28.6%
3. 職場体験などを通して、将来の仕事や西郷村の産業について知ることができる。	62.9%	70.7%	57.1%
4. 農業体験や地域を探索する活動など、西郷村のよさを体験できる機会がある。	24.1%	32.8%	57.1%
5. 地域の人から、西郷村の伝統や文化を学ぶことができる。	25.0%	25.9%	47.6%
その他	1.7%	0.0%	4.8%
無回答	0.0%	3.4%	0.0%

(ウ) 家庭での学習環境の「ここが良い」というところを教えてください。

西郷第一中学校及び西郷第二中学校は共通して、「おうちの人が学校のことに協力してくれている」及び「宿題等の自宅学習を進んでおこなっている」に対する評価が高くなっています。

川谷中学校では、「おうちの人が学校のことに協力してくれている。」及び「おうちの人が行事やイベントに積極的に参加してくれている」に対する評価が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. おうちの人が学校のことに協力してくれている。	50.0%	67.2%	66.7%
2. 学校と家庭で、勉強や生活の考え方がしっかり話し合われている。	34.5%	46.6%	33.3%
3. おうちの人が行事やイベントに積極的に参加してくれている。	26.7%	24.1%	57.1%
4. 宿題等の自宅学習を進んでおこなっている。	58.6%	58.6%	52.4%
5. スマートフォンやテレビなどを使う時間を減らすノーメディアデーにおうちの人と話し合いに取り組んでいる。	13.8%	13.8%	33.3%
その他	1.7%	0.0%	0.0%
無回答	2.6%	6.9%	4.8%

(工) 勉強がもっと楽しくなったり、やりやすくなったりするために、こうなったらいいなと思うことを教えてください。

今後の学習環境に対するニーズに関しては、3校共通して「放課後や休日に、友達と勉強やおしゃべりができる場所がほしい」に対する意向が高くなっています。

その他の項目には各校に特徴があり、西郷第一中学校では、「学校の校舎や体育館を新しくしてほしい」、西郷第二中学校では「タブレットを使った学習をもっとふやしてほしい」、「他の学年や他の学校の生徒と交流する機会をふやしてほしい」、川谷中学校では「みんなで話し合って考えを深めたい」、「生徒が自分たちで考えて活動できる行事やイベントをふやしてほしい」に対する意向が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. クラスの人数を少なくしてほしい	8.6%	6.9%	0.0%
2. わからないところをわかるまでしっかりと教えてほしい	45.7%	41.4%	19.0%
3. もっと難しい内容や関連する課題などをさらに学べるようにしてほしい	13.8%	24.1%	19.0%
4. みんなで同じ内容を学ぶだけでなく、それぞれが興味のあることを選んで学べるようにしてほしい	23.3%	31.0%	28.6%
5. ひとりで集中して勉強したい	16.4%	8.6%	9.5%
6. みんなで話し合って考えを深めたい	36.2%	44.8%	71.4%
7. 勉強する方法を自分で選べるようにしてほしい	24.1%	29.3%	28.6%
8. タブレットを使った学習をもっとふやしてほしい	37.1%	51.7%	28.6%
9. 職場体験など、将来の職業を考える学習をふやしてほしい	37.9%	43.1%	38.1%
10. 自然学習や農業等の様々な体験学習をふやしてほしい	20.7%	44.8%	38.1%
11. 他の学年や他の学校の生徒と交流する機会をふやしてほしい	29.3%	46.6%	23.8%
12. 生徒が自分たちで考えて活動できる行事やイベントをふやしてほしい	38.8%	43.1%	52.4%
13. 学校生活の決まりやルールについて、自分の考えや意見を聞いてほしい	11.2%	19.0%	9.5%
14. 学校の校舎や体育館を新しくしてほしい	50.0%	22.4%	38.1%
15. 放課後や休日に、友達と勉強やおしゃべりができる場所がほしい	53.4%	46.6%	52.4%
その他	1.7%	1.7%	14.3%
無回答	2.6%	1.7%	0.0%

(オ) 学校生活の中で、できるようになりたいことや、身につけたい力を教えてください。

学校生活の中で身につけたい力に関しては、3校共通して「基礎的・基本的な知識・技能」、「考える力・思考力」に対する意向が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. 基礎的・基本的な知識・技能	69.8%	74.1%	81.0%
2. 考える力・思考力	68.1%	75.9%	57.1%
3. 自ら学ぶ力	51.7%	60.3%	47.6%
4. 言われたことを正確に行う力	36.2%	46.6%	38.1%
5. タブレットなどを学習等で活用する力	24.1%	34.5%	0.0%
6. 外国語によるコミュニケーション能力	50.0%	62.1%	57.1%
7. 西郷村の歴史や産業、自然など、ふるさとに関する知識	13.8%	19.0%	19.0%
8. 新しいものや考えを生み出す創造的な力	24.1%	48.3%	52.4%
9. 自分には良さがあると認める力	25.0%	36.2%	28.6%
10. ものごとをやりとげるねばり強さ	37.9%	56.9%	52.4%
11. ものごとを計画的に取り組む力	36.2%	58.6%	47.6%
12. 失敗をおそれず、ちよう戦する力	51.7%	69.0%	52.4%
13. 自分の生き方や進路について考える力	38.8%	41.4%	38.1%
14. 相手に伝わるように自分の考えを表現する力	37.9%	48.3%	47.6%
15. 友達の大切さを認め、多様な意見や考えを尊重する力	42.2%	58.6%	33.3%
16. 自分の良さを生かし、他の人と協力して取り組む力	31.9%	37.9%	33.3%
17. 社会生活に必要な常識やきまりを守る力	29.3%	41.4%	33.3%
18. 集団の中で意見をまとめていくリーダーシップ	40.5%	39.7%	42.9%
19. 自分が困ったときに他の人に助けを求める力	34.5%	50.0%	33.3%
その他	0.0%	1.7%	4.8%
無回答	0.9%	0.0%	0.0%

(カ) 部活などを通して、どんなことを学びたい・身につけたいと思っているか教えてください。

部活動等を通して学びたい・身につけたいことに関しては、3校共通して「試合やコンクール等で良い成績をあげたい」に対する意向が高くなっています。

その他の項目には各校に特徴があり、西郷第一中学校及び川谷中学校では「強い精神力を身につけたい」、西郷第二中学校では「ルールや技術等の基本を身につけたい」に対する意向が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. ルールや技術等の基本を身につけたい	53.4%	62.1%	42.9%
2. 体力や楽器演奏などの技術を向上させたい	46.6%	48.3%	47.6%
3. 試合やコンクール等で良い成績をあげたい	59.5%	67.2%	47.6%
4. 高校や大学の進学に役立てたい	37.9%	41.4%	42.9%
5. スポーツや音楽等の自分が好きなことを楽しみたい	49.1%	58.6%	28.6%
6. クラスや学年を超えた友人をつくりたい	44.0%	34.5%	14.3%
7. スポーツマンシップや団体行動を身につけたい	41.4%	37.9%	38.1%
8. 強い精神力を身につけたい	62.1%	58.6%	71.4%
その他	0.0%	1.7%	9.5%
無回答	1.7%	1.7%	14.3%

(キ) 将来、子どもの数が少なくなると、学校のクラスの数が少なくなり、今と同じような学校生活ではなくなるかもしれません。以下の設問の中で、あなたが問題だと思うことを選択してください。

生徒数が少なくなることによる問題としては、3校共通して「クラブ活動や部活動の種類が少なくなるかもしれない」、「運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの行事が小さくなったり、できなくなったりすることがある」に対する意向が高くなっています。

(複数回答)

	西郷第一中学校	西郷第二中学校	川谷中学校
1. 学年によってはクラス替えができないことがある。	47.4%	46.6%	23.8%
2. 他のクラスと競争したり、協力したりする機会が少なくなる。	51.7%	58.6%	19.0%
3. 勉強のレベルに合わせた授業(習熟度別授業)などがやりにくくなる ことがある。	19.0%	34.5%	42.9%
4. クラブ活動や部活動の種類が少なくなるかもしれない。	60.3%	70.7%	61.9%
5. 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの行事が小さくなったり、でき なくなったりすることがある。	56.9%	72.4%	66.7%
6. 男子と女子の人数のバランスがかたよってしまうことがある。	44.8%	67.2%	33.3%
7. 先輩や後輩との関わりが少なくなって、学習や進路の参考になる人 が少なくなるかもしれない。	31.9%	48.3%	23.8%
8. 体育のチームプレーや音楽の合唱・合奏など、大人数でやる授業がや りにくくなる可能性がある。	45.7%	65.5%	42.9%
9. みんなで協力して考えるような授業で、取り上げられるテーマが限ら れてしまうことがある。	19.8%	50.0%	23.8%
10. 勉強が得意な人の意見に、クラス全体が引っぱられすぎてしまうこ とがある。	21.6%	43.1%	9.5%
11. 問題行動のある人がいると、クラス全体のふん囲気に大きくえい きょうすることがある。	37.1%	55.2%	33.3%
12. いろいろな人の意見が出にくくなって、授業が進めにくくなるこ とがある。	25.9%	51.7%	19.0%
13. 先生との距離が近くなりすぎて、ちょっと気をつかうことがある。	16.4%	25.9%	19.0%
14. クラスの数が少なくなっても特に問題はない。	12.1%	6.9%	14.3%
無回答	2.6%	0.0%	9.5%

(2)中学生ワークショップ

① ワークショップの概要

【目的】

中学生の意向を丁寧に把握し、西郷村の望ましい教育環境のあり方検討の基礎資料とします。

PTA・教職員 WS では、大人が子どもたちに将来どうなってほしいか、そのための教育環境がどうあるべきかについて意見を頂きました。

これに対して中学生自身が日常の学習環境の中で感じている「良いところ」「困っているところ」を把握し、生徒たちが描く望ましい教育環境について把握します。

【開催概要】

	日時		参加者	参加者数
西郷第一中学校	令和7年7月8日	3,4時限	3年生	121名
西郷第二中学校	令和7年7月15日	2,3時限	2年生	58名
川谷中学校	令和7年7月15日	5,6時限	1,2,3年生	27名

② ワークショップの結果まとめ

【テーマ1 良いところ・困っていることは？】

テーマ1「良いところ・困っていることは？」にて出された意見から、3校全体で共通した意見と、各校の特徴的な意見に分け主要なものを整理しました。

良いところとしては、生徒同士の仲の良さや先生との関係、地域との交流といった他者との関わりに対する肯定的な意見が全体を通してみられました。

困ったところとしては、学校の設備不足や部活動の種類が少ないことなどが主に挙げられていました。

全体で共通する良いところ

- ・生徒同士の仲が良い
- ・先生が親しみやすく生徒に寄り添ってくれる
- ・行事が多く様々な体験ができる
- ・給食が美味しい
- ・地域の方との交流の機会がある

各校の特徴的な意見

- ・校舎や駐輪場が広くて使いやすい（西郷第一）
- ・先生が優しく、親しみやすい（西郷第一）
- ・体育館が広くてきれい
- ・文化祭が活発（西郷第一）
- ・テニスコートがきれい（西郷第二）
- ・部活動のスペースが広い（西郷第二）
- ・不登校の生徒も安心できる環境がある（西郷第二）
- ・みんなが集まれるスペースがある（西郷第二）
- ・生徒が少人数で仲良くなれる（川谷）
- ・先生が個別に教えてくれる機会が多い（川谷）
- ・体験を通じて将来を考える機会がある（川谷）
- ・全学年で協力できる行事がある（川谷）

全体で共通する困ったところ

- ・廊下や講堂などエアコンのない環境がある
- ・部活動の種類が少ない
- ・通学路が安全でない（熊や車）

各校の特徴的な意見

- ・部活動の用具や場所が不足している（西郷第一）
- ・英語以外の多言語を学習したい（西郷第一）
- ・校舎が古く傷が多い（西郷第一）
- ・通学路の街灯が少ない（西郷第一）
- ・タブレットをより有効に使いたい（西郷第二）
- ・学年全体で取り組める行事が少ない（西郷第二）
- ・古い備品が多い（西郷第二）
- ・音楽室への移動がしにくい（西郷第二）
- ・他校との交流の機会を増やしてほしい（川谷）
- ・生徒の人数が少なくやることが多い（川谷）
- ・運動会の種目がすくない（川谷）
- ・校舎が古くて小さい（川谷）

【テーマ2 こんな学校だったら良いな】

学校の施設・設備のこと

- ・ 快適で便利な環境の中で学習・生活できる
- ・ 施設・設備がだれにとっても使いやすい
- ・ 体育館、校舎、講堂が広くて快適
- ・ トイレ、水道、ロッカーなど設備が充実している
- ・ 自習や生徒の自主的な活動に使える場がある
- ・ ICT環境(Wi-Fi、タブレット、電子黒板など)が整っている
- ・ 職員室が快適で先生が働きやすい

学校のプログラムのこと

- ・ 学校行事に全力で取り組める
- ・ 他校との交流ができる
- ・ 校外学習や体験型授業が充実している
- ・ 部活動の種類が多く、充実した活動ができる
- ・ 自分の学びたいことを授業で学べる
- ・ AIやICTを活用した学習ができる
- ・ 食の楽しみを学べる(家庭科など)
- ・ 給食が美味しく、十分な量が提供される
- ・ 村の伝統を学び継承する機会がある

生徒たち自身のこと

- ・ 生徒全員がお互いを尊重しあえる
- ・ 行きたいと思える魅力がある
- ・ ルールやマナーを守って生活できる
- ・ 目標に向かって高めあうことができる
- ・ 個性が発揮できる
- ・ 主体性が尊重される
- ・ 明るく、笑顔で生活できる

学校の外のこと

- ・ 通学の負担が少ない(スクールバスなど)
- ・ 地域の人にも役立つ学校
- ・ 地域の人との交流(見守り隊、伝統文化の学びなど)

西郷第一中学校

- 校舎については「古い」「狭い」といった意見が多く、**きれいなトイレや多目的に使えるスペース、広々と使える教室**などが求められていた。生徒数が多いことから、**清潔でゆとりある学習環境に対するニーズ**は高いといえる。
- 体育館は「きれい」「広い」といった肯定的な意見が多い一方で、**空調設備の導入**を求める声が多くみられた。
- 他校と比較するとICTの活用に関する意見や登下校環境に関する意見が多い傾向にあった。複数の小学校区から通う生徒が多い中で、**教材の持ち運びの負担を軽減するため、タブレットを活用した授業**を求める意見もみられた。
- キャッチフレーズでは、求める学校像として、「**地域の人に役立つ**」といったキーワードもみられた。

西郷第二中学校

- プールについては、設備が充実した清潔な屋内の**プール**を求める意見が多くみられた。
- 他校との交流の機会を求める意見も多くの班から出されていた。多くの生徒が小田倉小学校の出身であり環境の変化が少ない中で、**学外の生徒と関わる機会へのニーズ**が高いと考えられる。
- **部活動の種類**の充実を求める声や、**部活動が快適にできる設備**に対する意見も多くみられた。常設の12の部活動のうち文化部が3つと種類が少ないことや、サッカーなど屋外でできる部活動が少ない、といった点が背景にあると考えられる。
- キャッチフレーズでは、**生徒たちの自主性や個性の尊重**を重要視したものが多くみられた。

川谷中学校

- 部活の**選択性**を求める意見が多くみられた。川谷中学校では常設の部活がバドミントン部、剣道部の2つであることから、**多様な部活動が選択できる環境**へのニーズが高いと考えられる。
- **行事、イベントなど授業以外で活動できる機会**が欲しい、といった意見は各班から出されていた。また、他校交流を求める声も上がっており、少人数校であることから**他学年や他校など幅広い交流に対するニーズ**が高いといえる。
- 体育館に関する意見も多く上がっていた。現状川谷小学校と兼用の体育館であることから、**より広く設備が充実した体育館**が求められている。
- **技術室や美術室**といった**専門的な設備が用意された教室**で学びたい、といった声もみられた。実際のものにふれながら学習できるような専門教室が求められている。

第5章 西郷村学校教育環境が抱える課題

(1)西郷村学校教育環境が抱える課題

① 子どもたちが安心して自己を発揮できる学びの場づくり

西郷村の学校では児童生徒数の減少が進行しており、今後もこの傾向が続く見通しです。PTA・教職員ワークショップや村民アンケートでは、保護者から「子どもが多様な友人と関わることで社会性を身につけてほしい」「集団活動を通じて協調性や自信を育ててほしい」といった声が多く寄せられています。少人数の学校では人間関係が固定化しやすく、対人関係の幅が狭まることで、子どもが自分の居場所や役割を見つけにくくなる懸念も指摘されています。

中学生アンケートやワークショップからも、「部活動の種類が少なくなる」「運動会や文化祭などの行事が小さくなったり、できなくなったりすることがある」「他の学年や他の学校の生徒と交流する機会を増やしてほしい」といった意見が出されています。生徒数が減ることで、協働的な学びや多様な体験活動の機会が制限され、自己肯定感や主体性を育む場が減ってしまうことへの不安が示されています。

また、地域コミュニティの中で子どもたちが互いに刺激を受け合い、さまざまな価値観や考え方に触れることは、自己肯定感や主体性の向上につながります。一定規模の集団があることで、協働的な学びや多様な体験活動が可能となり、子どもたちの成長を支える土壌となります。

このため、児童生徒数の減少に対応する際には、単に施設や教職員の配置を見直すだけでなく、子どもたちが十分な人数の仲間とともに学び合い、成長できる環境を確保することが不可欠です。今後は、学校規模の適正化や統合の検討を通じて、子どもたちが安心して自己を発揮できる学びの場づくりを進めていく必要があります。

② 子どもたちの学びや成長を支える質の高い学校施設の提供

PTA・教職員ワークショップでは、「子どもが自分らしく過ごせる居場所がほしい」「安全で快適な環境で学ばせたい」「ICT を活用した新しい学びに対応できる施設が必要」といった意見が多く寄せられました。

中学生アンケートやワークショップからも、「放課後や休日に友達と勉強やおしゃべりができる場所がほしい」「タブレットや電子黒板など ICT 機器をもっと使いやすくしてほしい」「校舎や体育館を新しくしてほしい」「安全で安心して過ごせる学校がいい」といった声が上がっています。

これらの意見から、ICT 環境の充実や柔軟な学習空間の整備、安全性・快適性の向上が強く望まれていることが分かります。

今後の学校施設整備にあたっては、児童生徒数の推移や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちが主体的に学び、安心して過ごせる居心地の良い空間、ICT など新しい学びに適応できる環境、そして安全・安心な施設の実現を目指すことが不可欠です。これにより、子どもたちの学びや成長を支える質の高い学校施設を持続的に提供していくことが必要です。

③ 家庭・地域と学校の連携の維持が必要

PTA・教職員ワークショップにおいては、地域住民による見守り活動やボランティアの参加が活発であり、地域の伝統文化の継承や職業体験などを通じて、学校との連携が強いとの意見が多く寄せられました。これらの取り組みは、児童・生徒の豊かな学びを支える重要な要素となっています。

しかしながら、地域では人口減少と高齢化が進行しており、これまでの活動を持続可能な形で維持するためには、担い手の確保と育成が必要です。

文部科学省では、このような状況でも「将来にわたって生徒がスポーツや文化芸術活動を続けられる」ように、部活動をこれまでの「学校主体」から「地域で行うクラブ活動」への移行を進めています。西郷村では、令和5年度より「西郷村地域クラブ活動」を設立し、現在、9種目の活動を行っています。生徒が希望する部活動を選択できるよう、今後も活動の幅を広げていくため、活動を支える人材の育成や、安定的な活動場所の確保が必要となっています。

(2)優先的に取り組むべき課題

西郷村では、児童生徒数の減少が進行するなかにおいても、子どもたちが十分な人数の仲間とともに学び合い、成長できる環境を確保することが必要です。

特に中学校については、教科担任制の運用や部活動の実施など、生徒数の減少により学習環境の質が低下する要素が多く存在します。教員数の減少により、免許外指導の増加や部活動の選択肢の制限、団体競技の継続困難などが顕在化しており、教育の質と生徒の学びの機会に影響を及ぼす可能性があります。

加えて、PTA・教職員ワークショップでは、小規模校の中学生が高校に進学した際、大人数の集団生活に戸惑いを感じるケースが見受けられるため、中学生のうちから、ある程度の規模の集団生活に慣れておくことで、高校生活へのスムーズな適応が可能となり、自己実現に向けた力を育むことができるのではないかという意見がありました。

こうした観点からも、西郷村の中学校においては、生徒規模を適正に確保し、十分な集団の中で多様な人間関係や協働的な学びを経験できる環境づくりが必要です。

このため、学習環境の質を維持し、児童生徒にとってより良い学びの場を提供するためには、中学校の小規模化の対策を先行して進めるとともに、小学校の小規模化への対策についても段階的に検討を進める必要があります。

第6章 西郷村の望ましい学校教育環境

西郷村学校教育環境が抱える課題の解決を図るとともに、PTA・教職員、中学生を対象としたワークショップやアンケート等の意向を踏まえ、西郷村の望ましい教育環境を設定します。

(1)基本目標

未来を担う子どもたちに持続可能な質の高い望ましい教育環境を提供するため、以下のような基本目標を設定します。

自らを高め、共によりよく生き、未来を創造する人を育む学校教育環境

(2)望ましい学校教育環境の基本方針

基本方針1 子どもたちにとって魅力的な学びやすい学校づくり【学力】

① 教職員の適正な配置

質の高い学習内容の提供とともに教職員の負担を軽減するため、免許外指導や複式学級が解消できるよう、小中学校の学校規模の適正化を推進します。

② 教育支援スタッフの充実

学習の幅を広げ、学びの質の向上を図るため、専門的な知識や経験を持つ図書館司書や ALT (外国語指導助手)、ICT 支援員などの専門的な人材の充実を図ります。

スクールカウンセラー、学校支援員、スクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを配置し、教職員の業務を支援するとともに、子どもたちの学びや心のケアを充実させます。

③ 自主性を育てるカリキュラムの充実

一人一人に確かな学力を身につけさせるために、授業を核としつつ、課外活動や家庭学習を効果的に関連づけ、一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図ります。

子どもたちが自ら考え、選択し、行動できる力を育むために、探究的な学びやプロジェクト型学習を取り入れたカリキュラムの充実を図ります。

④ みんなで考え、課題を解決する力の育成

グループ活動やプロジェクト型学習を通じて、子どもたちが自ら課題を見つけ、仲間と協力して解決する力を育む学習活動の充実を図ります。

⑤ 国際化への対応

国際社会で活躍できる力を育てるため、英語教育の充実、オンラインを活用した国際交流・グローバルな視点を育む学習機会の充実を図ります。

⑥ 個々のニーズに応じた学習の場の提供

発達段階や学習スタイルに応じた柔軟な指導を行い、個別最適な学びを実現します。

外国籍や不登校など、多様な背景を持つ子どもたちに対して、個別に対応できる学習環境の整備を進め、誰もが安心して学べる場を提供します。

基本方針2 一人一人の可能性を伸ばし人間力を育む学校づくり【心力・体力】

① 多様な交流機会の創出

子どもたちが自分の個性を表現し、仲間と認め合う経験を積むことで、自己肯定感を高められるよう、「セカンドスクール」や「縦割り班」など、他学年や他校、地域との交流を通じて、異なる価値観や考え方に触れる機会の充実を図ります。

② 子どもが主体となる行事・特別活動の充実

子どもたちの責任感や達成感を育み、主体性を伸ばすため、文化祭など、子どもが企画・運営に関わる活動機会の充実を図ります。

③ 人や物を大切にする心の育成

道徳教育の充実に加え、SNS 教育など現代的な課題にも対応した指導を行い、他者への思いやりや責任ある行動を育みます。

④ 部活動の充実

子どもたちが取り組みたい部活動を選択できるよう、運動系・文化系の部活動の充実を図ります。地域のスポーツ指導者や専門的な知識を持つ人材を活用し、専門的かつ魅力的な指導を通じて、子どもたちの意欲と技能の向上を図ります。

基本方針3 安全で安心な居心地の良い学校づくり

① 将来の児童・生徒数を見据えた学校施設の効率的な整備

将来の児童生徒数の推移や地域の実情を踏まえ、学校の適正な配置を検討した上で、効率的に新しい学校施設の整備を推進します。

② 柔軟で居心地の良い学習空間の整備

学びの多様性に対応できる学習空間の創出を図るため、ICT の活用も含めた個別学習や協働学習に対応した柔軟な学習空間の整備を推進します。また、ICT の活用に適した通信環境や設備の整備を推進します。

快適で便利な環境の中で、自習や主体的な活動に使用できる居心地の良い学習空間を整備します。

③ 地域に開かれた学校としての整備

小中学校は、西郷村の学びの拠点として、地域住民との交流や協働が可能な「地域に開かれた学校づくり」を推進します。

また、小中学校は避難場所でもあることから、災害時にも安心して避難・支援が受けられるよう、設備や体制の整備を推進します。

基本方針4 未来の地域を担う子どもを育む学校づくり

① 地域学習の充実による郷土愛の醸成

西郷村への愛着を育み、地域の一員としての自覚を高めるため、「福島県無形文化財上羽太の天道念仏踊り」の体験、「地元探検」等、地域の歴史・文化、自然、産業などを学ぶ活動を促進します。

② 地域産業と連携したキャリア教育の推進

子どもたちが地域の産業や働くことの意義を理解し、夢や目標を持ち、自らの将来を主体的に考える力を育てるため、西郷村の特色ある地域産業である農業や畜産をはじめ、地元企業や団体との連携を通じて、職業体験や進路学習の充実を図ります。

③ 部活動の地域展開に対応した教育環境の整備

部活動の地域展開に伴い、活動場所の確保や地域指導者との連携体制の構築など、学校と地域が協働して「西郷村地域クラブ活動」の充実を図ります。

④ 放課後・休日の居場所づくり

放課後や休日においても、地域の施設や人材を活用した活動機会を提供し、子どもたちが健やかに過ごせる居場所づくりを進めます。

⑤ 安全な通学環境の整備

交通量の多い通学路については、児童生徒の安全確保のために、歩道の整備や交通安全対策の強化を推進します。

子どもたちが安心して登下校できるよう、地域ボランティアの協力のもと、通学路の見守り活動に取り組めます。

通学距離の長い児童生徒に対しては、スクールバスの活用により安全性を確保し、安心して通学できる環境を提供します。

(3)望ましい学校教育環境を確保するための方針

中学校においては、学級数の減少に伴い教職員数が減少し、教科担任制の維持が困難となることで、教育の質の低下が懸念されます。また、部活動の選択肢が限られ、子どもたちの多様な学びや成長の機会が損なわれる可能性もあります。

さらに、西郷第一中学校は築 49 年が経過し、老朽化が著しく進行していることから、安全性や快適性の確保の観点からも、早急な対応が必要となっています。

こうした課題を踏まえ、基本目標および基本方針で示した教育環境を提供するためには、標準規模の学級数(12～18 学級)を確保することが必要です。

このため、必要な学級数が確保できるよう、中学校の再編を優先的に進めていくこととします。

さらに、小学校においては、児童数の減少に伴う複式学級の増加、小田倉小学校及び羽太小学校の施設老朽化等の課題が顕在化していく可能性があります。

これらの状況を踏まえ、段階的かつ計画的に小学校再編に関する検討を推進していくこととします。

また、西郷村学校適正化配置検討委員会からの意見に引き続き留意しながら進めていきます。

第7章 地域懇談会

(1)目的

「西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案)」に関して地域住民への説明を行い、学校再編に対する心配事や期待することなどの意見を収集しました。

(2)開催概要

実施場所	日時		参加者数
熊倉小学校	令和7年11月5日	18:30-20:00	14
小田倉小学校	令和7年11月6日	18:30-20:00	17
米小学校	令和7年11月17日	18:30-20:00	7
羽太小学校	令和7年11月10日	18:30-20:00	7
川谷小学校	令和7年11月12日	18:30-20:00	11
文化センター	令和7年11月18日	18:30-20:00	13



(3)懇談会意見のまとめ

■学校再編に対する心配事

トピック	概要	開催場所					
		熊倉	小田倉	米	羽太	川谷	文化センター
通学環境	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が長くなることで、事故のリスクや共働き世帯の送り迎えの負担、部活・クラブ活動で遅い時間の帰宅になる場合の危険性が高くなるのではないかと。 ・スクールバスについては、ドライバーを確保できるのか、西郷村全体をカバーできるのか、といった心配の声があげられました。 	●	●	●	●	●	●
教育環境	教育の質	●	●		●		
	部活動・クラブ活動		●		●		
	心のケア	●			●	●	●
放課後の居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校が統合された場合の児童館など、子どもたちの放課後の居場所を確保してほしい。 						●
地域との連携	地域コミュニティ	●			●	●	
	伝統の継承	●					
再編の進め方	再編の時期		●	●	●		
	情報発信	●	●		●	●	
	再編の準備		●				●
	住民意向の把握					●	●

■学校再編に期待すること

トピック	概要	開催場所					
		熊倉	小田倉	米	羽太	川谷	文化センター
教育環境	教育の質向上	●	●	●		●	●
	集団での学び	●	●	●	●		●
	魅力的な学校				●	●	●
	補助の充実		●				
	部活動・クラブ活動の充実	●	●	●	●		
ハード面	新校の場所		●				●
	施設・設備の充実		●	●			
	整備・維持管理の効率化	●			●		
通学環境の改善	●	●					
子どもの居場所確保	●	●					
地域との連携	地域との関わり		●	●			
	伝統の継承		●	●			
小中学校の連携	●	●					
早期の着手	●	●	●	●		●	
旧校舎の活用	●			●			

白紙

Ⅱ. グランドデザイン

I. 基本構想で掲げた「望ましい教育環境」をどう実現していくのか、グランドデザイン(将来的な全体像)を検討していきます。

白紙

第8章 望ましい学習環境を確保するための中学校統合の考え方

(1) 中学校の望ましい学習環境

「西郷村の望ましい学校教育環境の基本方針」を実現するために中学校に求められている学校施設について、中学生ワークショップやアンケートの結果を踏まえ、以下のように整理しました。

■子どもたちにとって魅力的な学びやすい中学校

教室や体育館が広い

授業に集中しやすい環境

自習スペースがある

AIを使った学習ができる

専門の教室(美術室や技術室)がある

1人1人への個別指導ができる

ロッカーが大きい

■一人一人の可能性を伸ばし人間力を育む中学校

快適な環境で部活動ができる

広くて自由に使えるスペースがある

イベントや行事に全力で取り組める

他学年や他校と交流できる場がある

自然と触れ合える

芝の校庭で遊べる

■安全で安心な居心地の良い中学校

夏涼しく、冬暖かい

誰でも使いやすいバリアフリー

きれいなプールがある

トイレがきれい使いやすい

冷たい水が飲める

購買がある

■未来の地域を担う子どもを育む中学校

村の伝統を学べる場がある

放課後にみんなで過ごせる場所がある

地域の人にも役立つスペースがある

放課後に自習できる場所がある

通学路が安全

(2)新しい中学校の規模検討

① 生徒数

概ね 10 年後に中学校の統合を行う場合、生徒数は約 500 人程度、学級数は 15 学級程度(特別支援学級除く)と想定されます。

表 生徒数、学級数の見通し

		実績	推計											
		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
西郷 第一	生徒数	333	326	340	336	331	329	332	305	319	301	321	289	275
	学級数	11	11	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10	10
西郷 第二	生徒数	213	215	218	213	205	191	181	178	175	181	173	179	154
	学級数	8	8	9	8	7	6	6	7	6	7	6	6	6
川 谷	生徒数	27	16	17	15	16	12	11	11	8	5	3	2	1
	学級数	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1
合計	生徒数	573	557	575	564	552	532	524	494	502	487	497	470	430
	学級数	22	16	17	17	16	16	15	15	15	14	15	14	13

※学級数は、1学級 35 人として算定

② 中学校施設の必要規模の算定

中学校を統合した場合、必要となる学校施設の規模について、文部科学省「中学校設置基準」、文部科学省「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目(最終改正令和3年6月14日)」に基づき試算します。

【前提条件】

・算定に用いる条件は以下の通りです。

○生徒数:500 名

・令和7年10月時点の推計による、令和 17 年の生徒数とします。

○学級数:15 学級

・文部科学省「教師を取り巻く環境整備に関する合意(令和6年12月 24 日)」より、令和8年度から 35 人学級が導入されることを踏まえ、1学級の生徒数を35人として算定します。(小数点以下切り上げ)

・特別支援学級は、現状の学級数を踏まえ、4 学級と設定します。

・多目的教室及び少人数授業用教室を設けることとします。

【校舎の必要面積】

- ・校舎の必要面積を算定した結果、文部科学省「中学校設置基準」による校舎の必要面積は約 3,400 m²以上となりました。また、文部科学省「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」による算定結果は約7,300m²以上となりました。
- ・校舎の必要面積については、値の大きい「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」による算定結果約 7,300 m²以上とします。

表 校舎の必要面積(中学校設置基準より算定)

項目	算定方法	必要面積(m ²)
校舎	$3240+4(497-480) = 3,308$	3,308 m ²
面積 合計		約 3,400 m ²

※100 m²で切り上げ

表 校舎の必要面積(公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目より算定)

項目	算定方法	必要面積(m ²)
校舎 ①	$5,129+160(15-12) = 5,609$	5,609 m ²
特別支援学級(1学級) ②	$168 \text{ m}^2/\text{学級} \times 4 = 672$	672 m ²
多目的教室及び少人数授業用教室	$(①+②) \times 0.105 = 607$	660 m ²
積雪寒冷度の補正(2級積雪寒冷地域)	$16 \text{ m}^2/\text{学級} \times (15+4) = 304$	304 m ²
延べ床面積 合計		約 7,300 m ²

※100 m²で切り上げ

【屋内運動場の必要面積】

- ・文部科学省「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」による屋内運動場の必要面積は以下の通りです。

表 運動場の必要面積

項目	算定方法	必要面積
屋内運動場	14学級～33学級 1,511 m ²	約 1,600 m ²

中学校の必要規模の算定の結果、必要となる学校施設の規模は、校舎が約 7,300 m²以上、屋内運動場の面積は 1,600 m²以上となりました。

参考 文部科学省「中学校設置基準」

(最終改正平成19年12月25日)

表 校舎の必要面積

学校	生徒数	面積(m ²)
中学校	1人以上40人以下	600
	41人以上480人以下	600+6×(生徒数-40)
	481人以上	3,240+4×(生徒数-480)

表 屋外運動場の必要面積

学校	生徒数	面積(m ²)
中学校	1人以上240人以下	3,600
	241人以上720人以下	3,600+10×(生徒数-240)
	721人以上	8,400

参考 文部科学省「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」

(最終改正令和3年6月14日)

表 校舎の必要面積

学校	学級数	校舎
		必要面積(m ²)(注2)
中学校	3~5学級	2,150+344×(N-3)
	6~11学級	3,181+324×(N-6)
	12~17学級	5,129+160×(N-12)

注)1 N……学級数(特別支援学級を除く。)

2 特別支援学級を置く学校の必要面積は、上表によって計算された必要面積に特別支援学級1学級につき168m²を加えた面積とする。

3 多目的教室を設ける学校の必要面積は学級数(特別支援学級を含む。)に応ずる必要面積に1.085を、多目的教室及び少人数授業用教室(少人数授業に対応した多目的教室を含む。)を設ける学校の必要面積は、学級数(特別支援学級を含む。)に応ずる必要面積に1.105を乗じて得た面積とする。

4 上表の基準は、温暖地の場合であって、当該学校の所在地の積雪寒冷度に応じて行う補正は次表のとおりである。

1級積雪寒冷地域	2級積雪寒冷地域
32 m ² ×N*	16 m ² ×N*

*特別支援学級数を含む

表 屋内運動場の必要面積

学校	学級数	屋内運動場*
中学校	1学級~7学級	1,162 m ²
	8学級~13学級	1,237 m ²
	14学級~33学級	1,511 m ²
	34学級以上	1,515 m ²

*特別支援学級数を含む

(3)新しい中学校施設の敷地条件

新しい中学校施設の建設にあたっては、生徒が安全かつ快適に学び、地域の拠点としての役割も果たせるよう、敷地条件を以下のように整理します。

敷地条件	内容
通学の距離・利便性	<p>中学校の通学距離の目安は6kmであり、生徒の通学距離が過度に長くないよう、人口分布を考慮した立地とすること。</p> <p>通学手段(徒歩、自転車、スクールバス等)や保護者の送迎の利便性も配慮すること。</p>
通学の安全性	<p>幹線道路や踏切、交通量の多い道路の横断など、通学路の安全性を十分に確保できる場所とすること。</p> <p>歩車分離や歩道の整備状況を考慮すること。</p>
災害時の安全性	<p>浸水や土砂災害、地震等の自然災害リスクが低い場所を選定すること。</p> <p>災害時には地域住民の避難所としても機能できるよう、敷地の安全性・アクセス性を確保すること。</p>
敷地の状況・法的条件	<p>既存建物の有無、都市計画の用途地域、農用地区域等、法令上の制約(日照、インフラ整備状況等)を確認し、建設可能な土地であること。</p>
周辺環境	<p>教育活動にふさわしい静かな環境であり、騒音や悪臭等の影響が少ないこと。</p> <p>景観や自然環境にも配慮し、地域の特色を活かした学びの場となること。</p> <p>既存の公共施設、スポーツ施設等との連携を検討すること。</p>
地域との連携・利活用	<p>地域住民が利用しやすい立地であり、学校施設の地域開放や地域活動の拠点としての活用も見据えること。</p> <p>地域の公共施設や交通インフラとの連携も考慮すること。</p>

第9章 学校統合の推進に向けた今後の検討課題

(1) 学校統合を進めるにあたっての留意事項

「西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案)」に関して実施したワークショップ、アンケート調査、地域懇談会で頂いたご意見より、今後の検討課題を整理しました。

① 中学校に関する留意事項

(ア) 通学環境・安全対策の確保

統合により通学距離が長くなる生徒に対するスクールバスの運行を検討します。特に、部活動等を行う生徒に対する運行のあり方を検討します。

(イ) 教育の質・学習環境の向上

一定の生徒規模を確保することで、子どもたちの交流や競争が生まれ、自立・共生する力や学力の向上に期待が寄せられていることから、免許外指導や複式学級の解消、専門スタッフの充実など、教育の質の維持・向上のあり方を検討します。

また、ICT 環境や特別教室等、多様な学びの機会の確保に向けた学校施設のあり方について検討します。

部活動の選択肢の増加、指導者の負担軽減、指導力の向上等、部活動の質を向上させ、生徒がより積極的に活動できる場の提供に向けて検討します。

(ウ) 中学校の統合に向けた意識醸成

統合前からの制服の統一化や中学校間の連携・交流等、統合中学校へスムーズな移行に向けた児童生徒、家庭の意識の醸成の方策を検討します。

② 小学校に関する留意事項

(ア) 通学環境・安全対策の確保

統合により通学距離が長くなる児童に対するスクールバスの運行を検討します。特に、低学年児童の通学時の安全対策の強化について検討します。

また、児童館等、放課後、安心して過ごせる場の充実について検討します。

(イ) 教育の質・学習環境の向上

地域の特色を活かした学習活動(自然体験、伝統文化の継承等)が再編後もしっかりと継承されよう、再編後の学習プログラムを検討します。

児童の環境変化によるストレスへの対応、一人ひとりの不安や悩みに寄り添うカウンセリングや相談体制の強化について検討します。

③ 共通事項

(ア) 地域コミュニティとの連携・伝統の継承

学校は地域の核となる存在であり、統合によって地域コミュニティのつながりや伝統行事、見守り活動が継承されるよう、地域と連携した活動や新たなコミュニティづくりの支援方法について検討します。

廃校となる校舎の活用については、地域の意見を踏まえながら検討します。

(イ) 児童生徒・保護者・地域住民への丁寧な説明と合意形成

学校統合は、子どもたちの学びや生活、地域コミュニティに大きな影響を及ぼすため、十分な情報提供と丁寧な説明を行い、児童生徒・保護者・地域住民の理解と合意を得ながら進めることが必要です。今後も引き続き、懇談会等を通じて多様な意見を把握し、計画に反映させることとします。

(ウ) 財政負担と持続可能性への配慮

統合に伴う新校舎建設や施設整備には多額の費用が必要となるため、長寿命化や既存施設の有効活用、国・県の補助制度の活用など、財政負担の平準化と持続可能性について検討します。

(2)今後のスケジュール(案)

統合中学校の開校までは、次のような事業スケジュールが想定されます。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
基本構想(適地選定)	■									開校
基本計画		■								
測量・地質調査				■						
用地取得、農地転用、開発許可				■	■					
造成設計				■	■					
造成工事						■	■			
基本設計・実施設計				■	■					
建築工事						■	■	■		
開校に向けた準備						■	■	■	■	